

平成 22 年 度

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

平成22年度 業務年報

目次

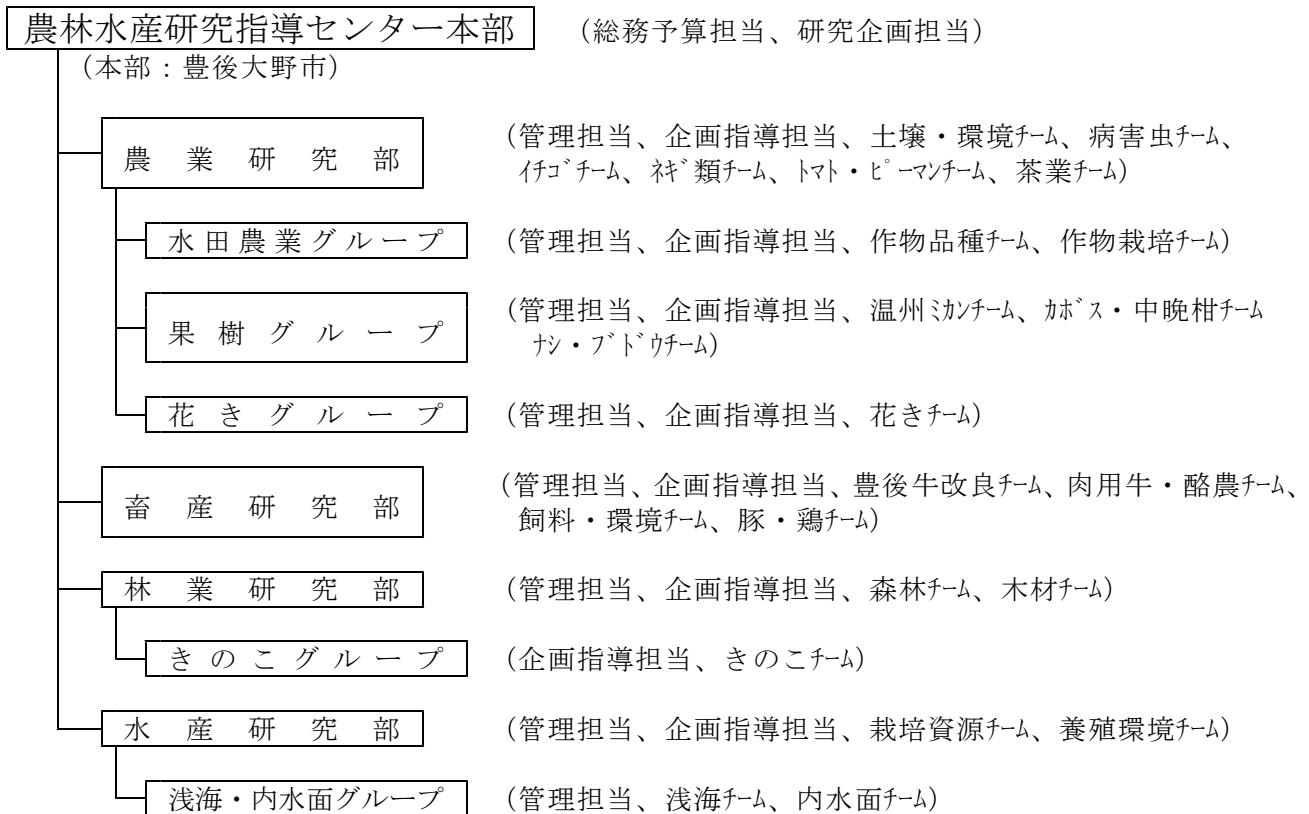
I	大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1	農林水産研究指導センターの組織	1
2	試験研究課題の重点化と評価の徹底	2
3	情報発信機能の強化	4
4	試験研究機関の連携推進	5
5	研究員の資質向上	5
6	農林水産関係研究成果発表会	6
7	職務発明、特許出願、種苗登録	7
8	大学との連携	7
9	受賞、学位取得の状況	7
1 0	主要な行事・会議等	8
1 1	各研究部・グループがめざす試験研究課題の方向	8
1 2	予算概要	9
II	研究部・グループの概要	1 0
1	農業研究部	1 0
2	水田農業グループ	2 3
3	果樹グループ	2 6
4	花きグループ	3 4
5	畜産研究部	3 8
6	林業研究部	4 4
7	きのこグループ	4 8
8	水産研究部	5 3

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産業の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置したが、その後の農林水産業を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及をめざして、研究指導体制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編し、効率的・効果的な研究開発を行うため、チーム制を導入し、チーム一丸となって技術開発に取り組むこととした。センター本部を豊後大野市に移し、全体を統括するセンター長と総務予算担当、研究企画担当を配置している。本部の主な業務は、試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、共同研究調整、知的財産取得・活用、課題評価・成果公表、研究員の資質向上、産学官交流・連携促進である。

組 織



農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

平成22年4月1日現在

機 関	事務吏員	技 術 吏 員					技労職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究センター本部	4		6			6		10
農業研究部	6	36	2	3		41	12	59
水田農業グループ	5	9	1	1		11	5	21
果樹グループ	1	13	1	2		16	7	24
花きグループ	1	7	1	1		9	5	15
畜産研究部	4	23	2	3		28	29	61
林業研究部	2	12	1	1		14	3	19
きのこグループ		6	1	2		9	1	10
水産研究部	5	16	1		6	23	1	29
浅海・内水面グループ	1	10	1			11	2	14
合 計	29	132	17	13	6	168	65	262

2. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

現場ニーズに即した試験研究を効率的に実施するため、研究課題数を概ね100課題に厳選し、研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間とした。

研究課題の設定や進行管理に当たっては、内部・外部評価を厳格に行い、評価結果や進捗状況を公表した。

(1) 評価の種類別対象課題

1) 事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、予算要求を行う事前の段階において新規候補課題のすべてについて、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性などすべての観点から評価を得て、事業実施の適否について判断した。

2) 中間評価

研究の進捗状況や現場ニーズ、取り巻く状況の変化等を踏まえた上で、試験研究継続の適否を判断する。研究期間を原則3年間としたため、対象課題はないが、センター長が必要と認める課題について実施した。

3) 事後評価

今後の現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、研究活動の3年目に研究課題の終了時点を見越し研究成果について実施した。

(2) 所内新規課題等検討会（外部評価委員会専門部会：6月16日～7月13日）

現場ニーズにあった試験研究計画にするとともに、試験研究結果について検証し、現地移転を促進した。開催は各研究部、グループ単位で行い、研究員、生産原課の担当職員、普及指導員、生産者代表等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

また本検討会に専門分野からの技術的アドバイスを受けるため学識経験者、生産者、消費流通関係者等で構成する外部評価委員会専門部会員の出席を求め、新規研究課題に関して「技術的達成の可能性」の観点から意見をもらった。

平成22年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部 門	専 門 部 会 員		
		所 属 名	職 名	氏 名
6/29	病 害 虫	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 赤かび病研究チーム	チーム長	中 島 隆
		九州大学 鹿児島大学	名誉教授	湯 川 淳 一

平成22年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部門	専 門 部 会 員		
		所 属 名	職 名	氏 名
7/ 1	土 壌 ・ 環 境	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 土壌環境指標チーム	チーム長	草 場 敬
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 植物生産科学	教授	和 田 信一郎
7/ 7	野 菜 ・ 茶 業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 植物資源科学部門 農業植物科学講座	教授	大久保 敬
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター [久留米研究拠点]	野菜花き研究 調整監	坂 田 好 輝
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター [久留米研究拠点] イチゴ周年生産研究チーム	チーム長	沖 村 誠
7/ 5	水 田 農 業	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター [筑後水田作研究拠点] 九州水田輪作研究チーム	チーム長	田 坂 幸 平
		三和酒類株式会社	常務取締役	下 田 雅 彦
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 農業生産生態学	准教授	望 月 俊 宏
6/2 4	果 樹	国立大学法人 鹿児島大学 農学部 生物生産学科 園芸生産学講座	教授	富 永 茂 人
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 [カンキツ研究口之津拠点]	カンキツ調整監	塩 谷 浩
		学識経験者 (元柑橘試験場長)	学識経験者	甲 斐 一 平
		大分県果樹生産者協議会 (大分県柑橘研究会)	会長 (会長)	川 野 英 信
6/2 5	花 き	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター [久留米研究拠点] 暖地施設野菜花き研究チーム	チーム長	池 田 廣
		東海大学 農学部 応用植物科学科 蔬菜花卉園芸学研究室	教授	田 中 孝 幸
		大分県肥料植物防疫協会 日本植物防疫協会	顧問 県試験員	佐 藤 俊 次
6/1 6	畜 産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物海洋生物資源学講座 家畜生態学分野	准教授	後 藤 貴 文
		独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	研究管理監	古 川 力
		社団法人 大分県畜産協会	専務理事	久保田 竹 次
6/2 5	林 業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 森林資源科学部門 生物材料機能学講座	准教授	藤 本 登 留
		独立行政法人 森林総合研究所九州支所 森林生態系研究グループ	グループ長	石 塚 成 宏
6/2 9	き の こ	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 森林環境科学講座	教授	大 賀 祥 治
		独立行政法人 森林総合研究所九州支所 森林微生物管理研究グループ	主任研究員	宮 崎 和 弘
7/1 3	水 産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物資源学講座	教授	松 山 倫 也
		独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部	部長	岸 田 達
		独立行政法人 水産総合研究センター養殖研究所 上浦栽培技術開発センター	センター長	尾 形 博

(3) 試験研究推進本部会議本部員並びに企画評価会議委員による評価会議(内部評価)

(農業、畜産(豚・鶏チーム)：7月27日、畜産、林業、水産：7月28日)

農林水産部長、審議監、県庁生産原課の課室長、農業大学校長並びに農林水産研究指導センター長で構成する試験研究推進本部会議本部員と総務部・企画振興部・生活環境部の総務企画監、商工労働部の産業企画監並びに農林水産部政策企画監、流通企画監で構成する企画評価会議委員による評価会議を開催し、事前、事後及び中間の評価対象研究課題について評価を受けた。

(4) 外部評価委員会(外部評価)：9月13日

経済界や大学の学識経験者、市場関係者や生産者代表をもって構成する外部評価委員により、「政策的妥当性」について「政策への適合性」や「公共性・公益性」の観点から、併せて「研究開発効果」について「経済効果及び県民生活上の効果」、「技術の優位性、新規性、独創性」並びに「技術移転・普及の可能性」の観点から評価を受けた。

平成22年度農林水産研究指導センター外部評価委員出席者

分野	委員名	役職等	選定理由
経済界・学識	本谷 るり	大分大学 経済学部 准教授(経営戦略論)	大分県新長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会) 一次産業の経営戦略的な観点から研究課題の妥当性について評価を期待できる。
流通関係者	長尾 喜久男	京都青果合同(株) 執行役員部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	立石 弘司	イオン九州(株) 産地開発部長	大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	藤澤 政則	大分一村一品 株式会社 代表取締役社長	県内におけるマーケティングに携わる最前線の立場から技術開発の必要性等について評価が期待できる。
生産者代表	大窪 勉	小ネギ	大分'味一ねぎ'生産部会副部会長 (有)葱屋おおくぼ
	田島 信太郎	林業経営者	(株)田島山業社長
	渡邊 英敏	小型機船底曳網 漁業者	元大分県漁業協同組合青年部長 大分県森林づくり委員

(5) 平成23年度研究課題の決定

内部評価で総合得点60点以上の課題については、次の外部評価に進み、60点未満のものについてはこの時点で事前評価対象課題から除外した。

外部評価で総合得点60点以上の課題については、事前評価対象課題に決定し、60点未満のものについては内部評価会議の結果を踏まえて、最終的にセンター長が研究課題として採択するか否かを判断した。

23年度の新規候補課題は21であり、その内採用課題数は15であった。

3. 情報発信機能の強化

(1) 大分県農林水産研究指導センターホームページ

インターネットを通じて、試験研究機関が取り組んでいる研究課題を明らかにするとともに、データベース化された研究成果を公表し、県民がいつでも活用できる体制を整備している。また、生産者等からの要望・相談窓口を設置し、県民の意見を聴取する体制を整備した。

4. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関が総合的かつ有機的な連携を図るため、衛生環境研究センターと産業科学技術センターとで大分県試験研究機関連携会議を平成22年度に設置し、研究員の交流、意見・情報交換の推進、試験研究機器の相互有効活用の推進、研究の連携推進等を行った。

5. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 長期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
果樹グループ	主任研究員 釘宮 伸明	独立行政法人 果樹研究所 ブドウ・カキ拠点	広島県 東広島市	H22.11.1 ～12.24 54日間	ブドウの着色に関する遺伝子の解析による品種系統の選抜
農業研究部	研究員 雨川 公洋	独立行政法人 野菜・茶業研究所	三重県 津市	H23.1.6 ～3.10 44日間	野菜病害の病原菌レース検定技術の修得

(2) 新規採用研究員生産現場体験研修

新規採用研究員を先進生産者や先進企業体に派遣し、生産現場における作業を実際に体験することで、経営の実態や流通、加工を含めた活動について理解を深め、今後の研究に生かすため研修を実施した。

所 属	職・氏名	研修先	研修期間
農業研究部	研究員 上谷 麻梨恵	農事組合法人 天の川生産組合	H22.5.9 ～5.28 20日間
花きグループ	研究員 石神 愛	(有)フローリストきつき	H22.6.28 ～7.16 19日間

(3) 若手研究員研修

若手研究員が幅広い観点から試験研究に取り組めるよう、30歳以下の研究員を対象にした若手研究員研修会を開催し、県の農林水産業の振興方針、研究のあり方と進め方等について研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H22.10.26	農林水産研究指導センター	30歳以下の若手研究員 26名	農業研究部 各試験圃場における研究課題の説明 センター長講話 講演「研究のあり方と進め方」 講師 林 研究指導顧問

(4) チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象にリーダーとしての自覚を高め、資質の向上を図るため、研究の企画・立案能力の開発を目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H22.8.19	土地改良会館 大会議室	チームリーダー 22名 企画指導担当 9名	センター長講話 講演「力強い研究チームをいかに作るか」 講師 林 研究指導顧問
H22.11.8	県庁新館 51会議室	チームリーダー 18名 企画指導担当 8名	副知事講話 意見交換

(5) マーケティング研修

流通業界において、マーケット動向を的確に把握し、経営戦略を立案している第1線の責任者からの講演及び意見交換を通じて、今、市場が求めているものに対する認識を深め「The・おおいたブランド」の産地づくりに向けた研究開発を目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 1. 18	県庁新館 51会議室	研究員 30名	講演「今、市場は何を求めているか」 講師 イオン九州(株) 産地開発部長 立石 弘司 活動報告「各地区・市場の情報」 報告者 おおいたブランド推進課 各地区担当マーケター

(6) プレゼンテーション研修

説得力あるプレゼンテーション技術や論理的なシナリオ構築、洗練された話し方を習得することを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H22. 12. 20 ～12. 21	県庁新館 OA プラザ	研究員 19名	テーマ「研究発表のためのプレゼン技術」 講師 東北大学大学院 生命科学研究所 准教授 酒井 聡樹

(7) 数理統計基礎研修

農林水産試験研究を行っていく上で、基礎的かつ重要な数理統計手法を習得し、あわせて現場で活用できる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H23. 1. 31 ～2. 2	県庁新館 OA プラザ	研究員 16名	テーマ「統計学概論など」 講師 独立行政法人 農業環境技術研究所 生態系計測研究領域 上席研究員 三中 信宏

6. 農林水産関係研究成果発表会

農林水産研究指導センターの研究員が一堂に会し、試験研究成果を発表することにより、お互いの研究課題や研究内容について情報交換を行い、研究員同士の相互理解と士気高揚さらには研究機関の連携研究へつなげる端緒とし、また関係者に成果を紹介するため、研究成果発表会を開催した。あわせて学位取得者の研究内容の発表も行った。

開催日時：平成23年3月2日（水） 10:00～16:10

開催場所：県庁本館 正庁ホール

発表課題：7 課題

参加者数：171名（副知事、農林水産部長出席）

平成22年度農林水産関係研究成果発表会 発表課題一覧 発表時間：1 課題 20 分

No	所属	職・氏名	発表課題
1	農業研究部	主任研究員・佐藤幸生	秋摘み茶生産技術とドリンク茶産地づくり
2	果樹グループ	主幹研究員・檜原 稔	早期加温ハウスミカンにおけるスワルスキーカブリダニ放飼によるミカンハダニ防除
3	花きグループ	主任研究員・甲斐千代	ホオズキの育苗と残渣処理技術の改善
4	畜産研究部	主任研究員・阿南加治男	「おおいた冠地どり」に対する飼料米利活用技術の確立
5	畜産研究部	主任研究員・中島伸子	飼料用米を利用した乳用牛の飼養技術の確立
6	林業研究部	主任研究員・内村 誠	
7	水産研究部	主任研究員・豆田俊治	大分方式乾燥による平角材の最適乾燥材生産システムの開発
		主幹研究員・大屋 寛	県産カボスを利用した養殖ブリの肉質改善

学位取得記念講演 発表課題一覧

No	所属	職・氏名	発表課題
1	農業研究部	主任研究員・山崎修一	サツマイモ帯状粗皮病の防除技術の開発
2	畜産研究部	研究員・岡崎哲司	豚の凍結精液を利用した人工授精技術
3	水産研究部	主幹研究員・伊藤流星	ヒジキの養殖と種苗生産に関する研究

7. 職務発明、特許出願、種苗登録

(1) 職務発明、特許出願

「ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用」について、審査請求を行った。

平成22年度特許出願等一覧表

発明・考案の名称	大分県の 発明・考 案者	発明・考案者の所属	権利者の持分 (%)	出願番号 (出願年月日)	審査請求 (審査請求年月 日)
ウシ脂肪交雑形成に 関わる一塩基多型お よびその利用	藤田 達男 渡邊直人	畜産研究部	大分県 20 京都大学 25 家畜改良事業団 20 日本ハム(株) 10 ビッグ研究所 25	特許 第2009-38007 (H21. 2. 20)	(H22. 9. 13)

(2) 種苗登録

平成21年3月26日に品種登録出願した、かんきつ1品種が品種登録された。

平成22年度品種登録一覧表

種類	登録品種名	読み	育成者の所属	出願番号	登録年月日
かんきつ	大分果研3号	おおいたかけん3ごう	果樹グループ	第23601号	平成22年10月13日

8. 大学との連携

県内には農林水産系の4年制大学がなく、研究交流が容易に進み難い状況にあるため、平成19年1月29日に九州大学大学院農学研究院と共同研究や人材養成について連携する基本協定を締結し、共同研究等で幅の広い研究を行うための連携を進めた。平成22年度は、18課題(一部、継続課題も含む)について共同研究・連携に向けた取り組みを行い、共同研究として取り組んだものが5課題、共同研究・連携に向けて検討中のものが9課題、具体的な連携に至らなかったものが4課題であった。

9. 受賞、学位取得の状況

1名の研究員が受賞し、表彰を受けた。また、平成22年度は3名が学位を取得し、平成23年3月末における農林水産部職員の博士号取得者は15名となった。

平成22年度 受賞者名簿

受賞者	受賞名	表彰授与主体	受賞年月日	受賞の内容
研究員 岡崎哲司	日本暖地畜産学 会優秀発表賞	日本暖地畜産学会	H22.10.16	ブタ凍結精巢上体精子を精漿 含有融解液で人工授精すると 繁殖成績が向上する
研究員 岡崎哲司	若手農林水産研 究者表彰	農林水産省	H22.11.24	ブタ精液の凍結及び融解法 の開発による人工授精技術の 高度化
研究員 岡崎哲司	第19回大分合同 新聞社賞	大分合同新聞	H23. 3.23	(豚凍結精液を用いた人工授 精法の開発に関する功績)
研究員 岡崎哲司	日本畜産学会 奨励賞	日本畜産学会	H23.3.27	ブタ凍結精液を用いた人工授 精法の開発に関する研究

【農林水産部職員 (H23年3月末現職) の博士号取得者 15名】

農林水産研究指導センター：10 (内訳 農業(1)、水田(1)、畜産(2)、林業(1)、きのこ(2)、水産(3))、その他：5

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

H22			
7月27日	農林水産部試験研究推進本部評価会議（農業、畜産（豚・鶏））	土地改良会館	会議室
7月28日	農林水産部試験研究推進本部評価会議（畜産、林業、水産）	土地改良会館	会議室
9月13日	外部評価委員会	土地改良会館	会議室
10月16～17日	農林水産祭（水産部門）への水産研究展示	亀川漁港	
10月23～24日	農林水産祭（農林部門）への農業・畜産・林業研究展示	別府公園	
H23			
3月2日	平成22年度農林水産関係研究成果発表会	県庁舎本館	正庁ホール

(2) 部長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長、グループ長とで構成とする部長会議、及び各研究部、グループの企画指導担当で構成する企画調整会議を開催した。

なお、部長会議は原則として県庁舎で毎月1回開催し、企画調整会議は必要に応じて、センター本部で随時開催した。

11. 各研究部・グループがめざす試験研究の方向

所属名	主な研究内容等
農林水産研究指導センター（本部）	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定 ○稲・麦・大豆の栽培技術、優良種子生産
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種雄牛の造成、改良増殖 ○肉用牛・乳用牛の飼養技術、繁殖技術 ○飼料生産技術、放牧技術、家畜環境対策

所 属 名	主 な 研 究 内 容 等
林業研究部	○森林施業技術、スギ等育種、病虫獣害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、製品開発、竹材加工技術
きのこグループ	○きのこの育種、栽培技術、病害虫防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定、経営に関する研究
水産研究部	○魚類の種苗生産・放流技術、資源管理、漁場造成技術 ○養殖魚の生産・疾病対策技術、環境保全、赤潮被害防止技術
浅海・内水面グループ	○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術、資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

12. 予算概要

平成22年度予算概要（当初予算[人件費を除く]）

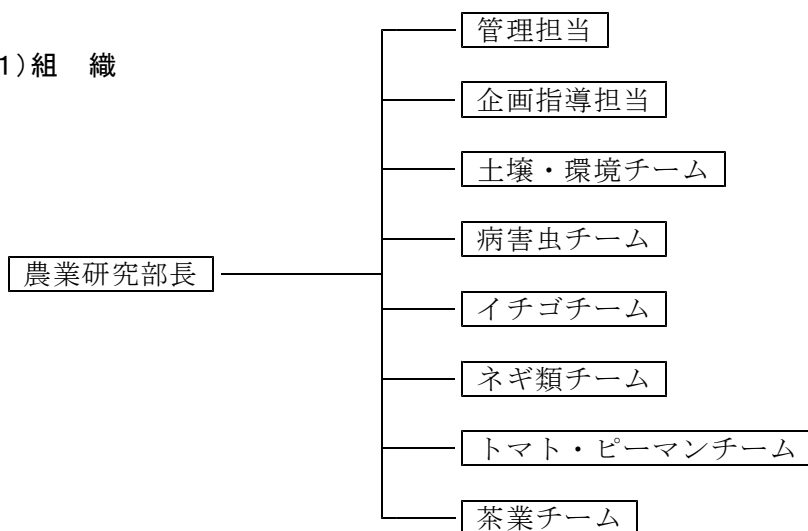
（単位：千円）

区 分	管理運営費	施設整備費	試験研究費	普及指導費	計
試験研究調整費 （農林水産研究指導センター本部）	4,870		54,020		58,890
農業研究部	45,899	3,345	40,533		89,777
水田農業グループ	37,368	8,252	16,746		62,366
果樹グループ	7,537	4,121	31,495		43,153
花きグループ	9,766	1,848	8,196		19,810
畜産研究部	38,813	2,995	130,965		172,773
林業研究部	18,624	5,477	11,291	675	36,067
きのこグループ			12,409	2,326	14,735
水産研究部	25,458	3,150	31,974		60,582
浅海・内水面グループ	22,237	1,002	17,592		40,831
合計（農林水産研究指導センター）	210,572	30,190	355,221	3,001	598,984

Ⅱ 各研究部・グループの概要

Ⅱ-1 農業研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
部 長			1					1	
次 長			1					1	
管 理 担 当		6		1			3	10	
企 画 指 導 担 当			6					6	広域普及指導員 3
土 壌 ・ 環 境 チ ー ム			6					6	
病 害 虫 チ ー ム			10					10	
イ チ ゴ チ ー ム			6	1		1		8	
ネ ギ 類 チ ー ム			4	2				6	
ト マ ト ・ ピ ー マ ン チ ー ム			5		2			7	
茶 業 チ ー ム			2	1	1			5	
計		6	41	5	3	1	3	59	

(3) 業 務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病害虫管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫及び病害虫発生予察情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病害虫管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための開発技術				
1) 新品種の育成				
(2) 野菜				
ア イチゴ新品種の育成				
ア) 交配	イチゴチーム		H16~25	県単
イ) 実生選抜	〃		〃	〃
ウ) 系統選抜				
(ア) 二次選抜	イチゴチーム		H16~25	県単
(イ) 三次選抜	〃	病害虫チーム	〃	〃
エ) 生産力・特性検定	〃		〃	〃
エ)-2 生産力・特性検定(大分3号の育苗関係)	〃	病害虫チーム、イチゴ品種育成支援プロ、イチゴプロジェクト	〃	〃
オ) 地域適応性試験	〃	振興局、品種育成支援プロ、イチゴプロ	H18~25	〃
(5) DNAマーカーを用いた県育成品種判別法の開発				
ア イチゴの品種判別	イチゴチーム		H21~22	県単
カ 判別法の簡易化および実用性の検討	〃		〃	〃
2) 優良品種の選定と栽培技術の確立				
(2) 野菜				
ア 白ネギの地域別優良品種・作型開発と肥料高騰に対応した施肥体系の確立				
ア) 収穫期別の品種・作型設定	ネギ類チーム	豊肥振興局	H21~23	県単
イ) 平坦地の夏越し品種選定	〃	白ネギプロジェクト	H21~22	〃
ウ) 肥料(リン酸、カリ)価格高騰を考慮した施肥技術の確立	〃		H21~23	〃
エ) 中間地での5~6月収穫の品種抽苔回避技術の確立	〃	豊肥振興局	H21~23	県単
イ 高糖度カンショ「べにはるか」の栽培実証と土壌別品質評価				
ア) 土壌別品質評価	ネギ類チーム	九州沖縄農業研究センター、中部振興局	H21~22	県単
イ) 簡易貯蔵庫による貯蔵性	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 普通作				
(1) 安全生産技術に関する研究				
ア ミナミアオカメムシを含めた大豆吸実性カメムシ類に対する防除対策技術の確立				
ア) 現地圃場での発生実態解明				
(ア) 新規合成フェロモン剤による誘引調査	病害虫チーム	九沖、福岡県、(株)富士フレーバー、水田G、北部局、豊肥局	H21~23	県単
イ) 防除技術の確立				
(イ) 追加防除適否基準の作成				
a 第3世代成虫に対する防除時期と被害量の検討	病害虫チーム	北部局	H22~24	県単
b 大豆被害粒産出能力の差異比較	〃	北部局、豊肥局、水田G	H21~23	〃
(ウ) 大豆総合防除体系確立	〃	北部局	H22~24	〃
2) 野菜				
(1) イチゴ栽培技術の確立				
ア イチゴ新品種の安定生産のための液肥を主体にした施肥体系の確立				
ア)-1 施肥効果を判定するための基準作成(夏季)	イチゴチーム	病害虫チーム	H22~23	県単
ア)-2 施肥効果を判定するための基準作成(栽培期間中)	〃	〃	〃	〃
イ) 効率的な施肥技術の確立	〃	〃	H22~24	〃
(2) イチゴの病害虫防除技術				
ア 育苗期の病害虫防除技術の確立	病害虫チーム	各振興局	H21~23	県単
イ 現地の課題に応じた育苗期の防除実証試験				
ア) 育苗期の防除試験	病害虫チーム		H21~23	県単
イ) イチゴ病害に対する薬剤選定	〃		H22~24	委託
ウ) 県単独品種の病害抵抗性検討	〃		H21~23	県単
(5) 土耕小ネギにおける周年安定生産技術の現地実証				
ア 浅耕起栽培体系による圃場準備作業短縮と雑草発生の抑制	ネギ類チーム	北部局、土壌・環境チーム	H22	県単
イ 需要期における小ネギの倒伏対策	〃	北部局、東部局、小ネギプロジェクト班	〃	〃
(6) おおいたニラの周年多収穫、高品質化と鮮度保持技術の確立				
ア タフボーイの栽培技術の確立				
ア) 品種特性の解明	ネギ類チーム		H21~23	県単
イ) 化学肥料低減技術	〃		〃	〃
イ 鮮度保持技術の確立	〃	産業科学技術センター	〃	〃

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
5) 共通				
(1) 農薬の安全・安心な使用法に関する研究				
ア) 普通作物の病虫害防除対策				
(ア) 水稻・大豆害虫の個別防除効果試験	病虫害チーム	豊肥振興局	H22～24	委託
イ) 野菜類病虫害に対する薬剤選定				
(ア) オオバにおける現地実証試験	病虫害チーム	中部振興局	H22～24	県単
(イ) ネギ類病害に対する薬剤選定	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
(ウ) ネギ類の害虫防除対策	〃	北部振興局	H22～24	県単一部委託
(エ) ニラ害虫の個別防除効果試験	〃	中部振興局	H22～24	県単一部委託
ウ) 農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	〃	土壌・環境チーム、中部振興局	H22～24	県単、一部国庫
(2) 環境負荷を低減する低コスト施肥技術の開発				
ア) 環境負荷を少なくする「大分県施肥基準」の策定				
(ア) 地力評価に基づく適正施肥量の指標化	土壌・環境チーム	振興局、農業研究部（野菜・茶関係チーム）	H20～22	県単
(イ) 主要品目の養分吸収特性	〃	〃	〃	〃
(ウ) 関連情報の体系的整理	〃	水田農業G、果樹G、花きG、野菜・茶関係チーム	H21～22	〃
(エ) 生理障害抑制技術構築のための新たな施設土壌診断技術				
a 塩基の形態別分析を用いた生理障害の要因解明	土壌・環境チーム	片倉チカリ、別府大	H22～24	県単
b リン酸集積状態の異なる土壌に対するリン酸施用効果の検証	〃	北部振興局、九州大	H20～22	〃
(3) 有機農業支援研究				
ア 水稻に関する栽培技術支援				
ア) 水稻における実態調査				
a 病虫害に関する実態調査	病虫害チーム	水田G、各振興局	H21～23	県単
b 水稻栽培技術の検証	〃	〃	H20～24	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
イ 野菜に関する栽培技術支援				
ア) 病虫害防除技術の検証及び開発				
a サトイモ	病虫害チーム	土壌・環境チーム、各振興局	H22～24	県単
b ダイコン、ホウレンソウ	〃	〃	〃	〃
c 畑作レタス	〃	〃	〃	〃
d ニンジン	〃	〃	〃	〃
ウ 有機農業適応技術の検証と品質への影響評価				
ア) 現地実態調査	土壌・環境チーム		H22～24	県単
イ) 緑肥作物等を利用した抑草技術	〃		〃	〃
ウ) 有機栽培（野菜）が土壌微生物相に与える影響	〃		〃	〃
エ) 野菜の内容成分と食味への影響調査	〃		〃	〃
(4) 園芸戦略品目の総合的土壌管理手法の確立				
ア 土壌物理性の診断法検討				
(ア)トマト、(イ)ピーマン、(ウ)小ネギ、(エ)ニラ	土壌・環境チーム	関係振興局	H21～24	県単
イ 肥料養分の迅速診断技術	〃	〃	〃	〃
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
1) 野菜				
(1) 担い手の育成・確保のための低コスト、高品質化生産技術の確立				
ア イチゴ経営体の規模拡大を可能にする新生産方式の開発				
ア) 規模拡大可能な省力多収技術の確立				
(ア) 年内収量向上のための肥培管理技術	イチゴチーム		H20～23	県単
イ) 育苗の効率化と花芽分化安定技術の確立				
(ア) 効率的採苗技術	イチゴチーム		H20～23	県単
(イ) ランナー子苗利用技術	〃		〃	〃

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
イ パッケージセンターと局所環境制御技術を活用した大規模高収益イチゴ経営モデル構築				
ア) 局所環境制御等による生産安定技術の確立				
(ア) 灌水同時施肥と炭酸ガスの効率的施用による厳寒期の果実品質向上と増収技術				
a 施肥効果を判定するための基準作成 (夏季)	イチゴチーム	佐賀県、九沖、長崎県、九電等	H22~24	国庫
b 施肥効果を判定するための基準作成 (栽培期間中)	〃	〃	〃	〃
c 効率的な施肥技術の確立	〃	〃	〃	〃
d 炭酸ガス濃度制御方法	〃	〃	〃	〃
e 炭酸ガスの施用効果を高めるための肥培管理	〃	〃	〃	〃
イ) 規模拡大のための省力・低コスト化技術の確立				
(ア) 作期分化に対応した省力育苗方法				
a ランナー子苗を活用した省力・低コスト育苗				
a) 二次親株切り離し時のランナー切り離し位置	イチゴチーム	佐賀県、長崎県、九電等	H22~24	国庫
b) ランナー子苗利用技術	〃	〃	〃	〃
b 低温処理育苗を利用した作型前進技術				
a) 長期夜冷育苗による作型前進技術	〃	〃	H20~23	〃
b) 先しばり果発生軽減対策技術	〃	〃	〃	〃
c マルチ後定植等の省力化技術における花芽分化促進方法	〃	〃	〃	〃
d マルチ後定植等の省力化技術における花芽分化促進方法	〃	〃	H22~24	〃
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
2) 野菜				
(1) 夏秋トマトの着果安定と品質向上技術				
ア 高温化に伴う夏秋トマトの着果安定と品質向上技術				
ア) 後期収量安定技術の				
(ア) 後期作型との組み合わせによる後期収量の向上	トマト・ピーマンチーム		H20~22	県単
(イ) 養水分・茎葉管理の適正化による裂果対策と品質向上 (裂果対策)	〃		〃	〃
(ウ) 養水分・茎葉管理の適正化による裂果対策と品質向上 (着果安定)	〃		〃	〃
(エ) 夏秋トマトの開発技術現地実証	〃		H22~23	〃
(2) 夏秋ピーマンの高品質・多収安定栽培技術の確立				
ア ピーマンうどんこ病に対する防除技術の確立				
ア) 発生生態の解明	病害虫チーム	中部振興局、広域普及指導班JAおおい	H21~24	県単
イ) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
イ GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の開発				
(ア) 腐敗果発生の要因解明	〃	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、園芸振興室、おおいたブランド推進課、各振興局、JAおおい、JA全農おおい	H21~23	〃
(イ) GAP手法に基づくピーマン腐敗果防止技術の実践	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
ウ 防除技術の確立				
ア) 夏秋ピーマンにおける現地実証試験				
(ア) 天敵資材を用いた現地実証試験	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、研究普及課、園芸振興室、おおいたプラント推進課、各振興局、JAおおい	H21~23	県単
(イ) タバコガの現地実態調査	〃	〃	H21~26	県単、一部国庫
エ 夏秋ピーマンにおけるe-naおおい安定生産技術の確立				
ア) 有望品種の選定	トマト・ピーマンチーム	病害虫チーム	H21~23	県単
イ) 尻腐れ果軽減技術	〃	〃	〃	〃
ウ) -1 タバコガ軽減技術(LED)	〃	(株) ぎょうらっく	〃	〃
ウ) -2 タバコガ軽減技術(防虫ネット)	〃	〃	〃	〃
(3) ネギ類における高温期の生体反応と環境制御技術の確立				
ア 高温期のハウス内における作業環境、生育環境改善法と評価				
ア) 特性の異なるフィルム被覆下のネギ類の生育反応	ネギ類チーム		H21~23	県単
イ) 被覆資材による遮光方法とネギ類の生育反応	〃		〃	〃
イ ニラ、小ネギの環境要因に対する耐ストレス強度と生態変化の解明	〃	土壌・環境チーム	〃	〃
3) 共通				
ア 土壌由来温室ガス計測・抑制技術実証普及事業関連情報の体系的整理				
ア) 水田 定点・基準点調査	土壌・環境チーム	関係振興局、家畜衛生飼料室	H20~24	国庫委託(一部県単)
イ) 野菜 定点・基準点調査	〃	〃	〃	〃
イ 稲麦大豆体系での低コスト施肥技術				
ア) 場内土壌での低コスト肥料の施用効果				
イ) 現地土壌での低コスト肥料の施用効果				
(ア) 現地麦・水稲	土壌・環境チーム	水田農業G、全農おおい	H21~23	県単
(イ) 場内ワグネル	〃	〃	〃	〃
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
5 病害虫発生予察事業				
1) 発生予察技術支援対策				
(1) ウイルス保毒虫、薬剤抵抗性害虫の検定	病害虫チーム	各振興局	H22~24	県単、一部国庫
(6) 優良種苗等の供給				
ア 高収益作物の高品質化、高収益性を支えるウイルスフリー苗の作出と供給				
ア) イチゴ、カンショの優良種苗の作出	イチゴチーム	ネギ類チーム	長期	県単
イ) カンショの品種選定	ネギ類チーム	九州沖縄農業研究センター	〃	〃

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成21年度野菜・茶業試験研究成績書	H22. 6. 24	269	90
平成22年度土壌肥料成績書	H23. 3. 31	171	150
平成22年度植物防疫に関する試験成績書	〃	214	150
平成22年度植物防疫事業成績書	〃	64	150

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
Okazaki, S., Okuda, M., Yamasaki, S., Okuda, S., Sakurai, T., Iwanami, T.	The effect of virus titre on acquisition efficiency of <i>Tomato spotted wilt virus</i> by <i>Frankliniella occidentalis</i> and the effect of temperature on detectable period of the virus in dead bodies.	Australasian Plant Pathology	40	120-125
Okuda, M., Okazaki, S., Yamasaki, S., Okuda, S., Sugiyama, M.	Host range and complete genome sequence of <i>Cucurbit chlorotic yellows virus</i> , a new member of the genus <i>Crinivirus</i> .	Phytopathology	100	560-566
Ueda, S., Okazaki, S., et al.	Emerging Geminiviral Disease and their Management. - Chapter 9-An overview of <i>Tomato yellow leaf curl virus</i> and its vector insect <i>Bemisia tabaci</i> in Japan.	Nova Science		183-193
小野元治	ニラで採集されたネダニモドキ属ネダニ類に対する有効薬剤	第55回日本応用動物昆虫学会講演要旨集		62
岡崎真一郎・山崎修一・山下大輔・玉嶋勝範	夏秋ピーマンにおけるタバコガの発生実態と軟腐病による果実腐敗との関係	第55回日本応用動物昆虫学会講演要旨集		23
武政彰・和田志乃、小野元治他	ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの3齢幼虫期までの簡易識別法	第55回日本応用動物昆虫学会講演要旨集		16
岡崎真一郎・吉松英明・和田志乃・上田重文	大分県で採集したオンシツコナジラミのアセタミプリド剤に対する感受性低下	九州病害虫研究研究会報	56	83-87
岡崎真一郎・吉松英明・塩崎尚美・和田志乃・上田重	大分県の施設イチゴ栽培におけるオンシツコナジラミの発消長と各種薬剤に対する殺虫効果	九州病害虫研究研究会報	56	109
武政彰	小麦圃場で多発したミナミアオカメムシと収穫後の周辺雑草における幼虫の生息状況	九州病害虫研究研究会報	56	117
石松敏樹・岡本潤	イチゴ萎黄病に対する高設ベンチ栽培での土壌消毒法の検討	九州病害虫研究研究会報	56	114
小野元治・武政彰・山本千恵	根深ねぎにおけるシロイチモジヨトウの合成性フェロモン剤の使用法改善	九州病害虫研究研究会報	56	129
安部貞昭・椎原誠一・奈良絵美	小ネギ下葉残さを用いた堆肥の作成方法と施用技術	農業および園芸	85号:5号	533-538
安部貞昭・佐藤如・戸井田雄一・大仲真喜子	イチゴ高設栽培におけるランナー子苗を活用した栽培に関する研究(第3報)ランナー子苗活用栽培における品種間差:	園芸学研究	第9巻別冊2	453
佐藤 如、安部貞昭、畑山とも子、戸井田雄一	イチゴ'大分3号'の苗質、定植後の生育が生育、収量に及ぼす影響	園芸学研究	第9巻別冊2	223
吉田佳子・佐藤如・大仲真喜子	保水シート耕のトマト一段密植栽培における塩ストレス処理後の給液方法が果実品質・収量に及ぼす影響	園芸学研究	第9巻別冊2	468
大仲真喜子・大坪亮介・吉田佳子	土耕小ネギ栽培における栽植密度が収量と品質に及ぼす影響	園芸学研究	第9巻別冊2	178
井田寛子、衛本圭史、安部良樹、池永亜希子 他	焼酎製造に用いられる大麦の品種判別	日本生物工学会大会講演要旨集	平成22年度	99

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22.9.20	園芸学会平成22年秋季大会	安部貞昭	イチゴ高設栽培におけるランナー子苗を活用した栽培に関する研究(第3報)ランナー子
H22.9.20	園芸学会平成22年秋季大会	佐藤 如	イチゴ'大分3号'の苗質、定植後の生育が生育、収量に及ぼす影響
H22.9.20	園芸学会平成22年秋季大会	吉田佳子	保水シート耕のトマト一段密植栽培における塩ストレス処理後の給液方法が果実品質・
H22.9.20	園芸学会平成22年秋季大会	大仲真喜子	土耕小ネギ栽培における栽植密度が収量と品質に及ぼす影響
H22.10.29	日本生物工学会大会	井田寛子、衛本圭史、安部良樹、池永亜希子 他	焼酎製造に用いられる大麦の品種判別
H22.11.10	第80回九州病害虫研究会秋季大会	小野元治・和田志乃他	フィプロニル剤のイネクロカメムシ成虫に対する密度抑制効果
H22.11.10	第80回九州病害虫研究会秋季大会	雨川公洋・山崎修一	硫黄粉剤の畝上散布によるピーマンうどんこ病の防除効果
H22.11.18	平成22年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会 野菜現地研究会	藤谷信二	温暖化に対応した夏秋トマトの栽培技術開発
H23.1.24	第81回九州病害虫研究会春季大会	岡崎真一郎・和田志乃・湯川淳一	ダイズ子実の被害形状と程度を決定するミナミアオカメムシの吸汁影響力における雌雄および齢期間差異
H23.2.8	有機農業研究会	山野 秀真	有機農業の土壌からの取り組み
H23.3.9	土壌肥料・病害虫に関する研究会(土壌肥料)	影井 雅夫	園芸戦略品目の総合的土壌管理手法の確立
H23.3.9	土壌肥料・病害虫に関する研究会(土壌肥料)	佐伯 知勇	有機物の利用実態と新たな肥効評価法による有機物診断
H23.3.9	土壌肥料・病害虫に関する研究会(土壌肥料)	明石 洋次郎	新たな大分県施肥基準に対応した大分県版土壌診断ソフト
H23.3.29	第55回日本応用動物昆虫学会福岡大会	小野元治	ニラで採集されたネダニモドキ属ネダニ類に対する有効薬剤
H23.3.29	第55回日本応用動物昆虫学会福岡大会	武政彰・和田志乃・小野元治他	ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの3齢幼虫期までの簡易識別法
H23.3.29	第55回日本応用動物昆虫学会福岡大会	岡崎真一郎・山崎修一・山下大輔・玉嶋勝範	夏秋ピーマンにおけるタバコガの発生実態と軟腐病による果実腐敗との関係

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
土壌肥料・病害虫に関する研究会(病害虫)	H23.1.19	産業科学技術センター	1	100
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H23.3.2	県庁本館 正庁ホール	2	171
土壌肥料・病害虫に関する研究会(土壌肥料)	H23.3.9	全労済ソレイユ	3	60

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.4.6	大分ニラ連絡協議会	大分市	25	
H22.4.9	茶の新植研修会	杵築市山香町	7	茶業青年会
H22.4.12	茶の新植研修会	豊後大野市大野町	15	
H22.4.13	広域ニラ生産者協議会	大分市	20	
H22.4.15	白ネギプロジェクト班会議	大分市	12	
H22.4.16	かぶせ茶研修会	杵築市	10	東部振興局
H22.4.21	大分ニラ広域協議会役員会	大分市	7	
H22.4.22	小ネギ部会研修会	国東市武蔵町	50	県野菜生産者協議会
H22.4.27	ニラプロジェクト班会議	大分市	10	
H22.4.27	製茶加工研修会	杵築市	15	東部振興局
H22.5.13	イチゴの日	イチゴチーム	6	イチゴチーム
H22.5.20	いちご生産者協議会ブロック別研修会	杵築市	90	大分県食料・農業・農村振興協議会
H22.5.24	園芸技術者協議会総会	農業文化公園	112	
H22.5.26	いちご生産者協議会ブロック別研修会	佐伯市	50	大分県食料・農業・農村振興協議会
H22.5.27	いちご生産者協議会ブロック別研修会	玖珠町	30	大分県食料・農業・農村振興協議会
H22.5.28	アスパラガス研修会	佐伯市	45	アスパラガス生産者協議会
H22.6.3	白ネギプロジェクト班会議	大分市	13	
H22.6.3	園芸技術者協議会白ネギ研修会	三重町	13	園芸技術者協議会
H22.6.3	高糖度かんしょ推進協議会	三重町	16	
H22.6.3	白ねぎ技術者協議会研修会	宇佐市	20	白ねぎ技術者協議会
H22.6.7	普及指導員課題解決研修(茶)	県庁	8	
H22.6.8	イチゴ「大分3号」栽培技術研修会	全農大分県本部	25	農林水産研究指導センター
H22.6.8	三重町上田原老人クラブ農業研修	三重町	20	
H22.6.14	耶馬溪茶一番茶荒茶審査会	中津市耶馬溪町	15	
H22.6.24	イチゴの日	イチゴチーム	8	イチゴチーム

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.7.6	白ネギプロジェクト班会議	玖珠町	10	
H22.7.6	ドリンク茶研修会	宇佐市安心院町	10	
H22.7.8	ピーマンの日	農業研究部(豊後大野)	3	研究普及課
H22.7.27	白ネギ研修会	宇佐市	16	
H22.7.29	白ネギ研修会	大野町	16	
H22.7.30	おおい茶グリーン研修会	農業研究部(豊後大野)	10	おおい茶グリーン推進協議会
H22.8.4	高糖度かんしょ推進協議会	三重町	16	
H22.8.5	白ネギ研修会	玖珠町	25	
H22.8.5	ピーマンの日	農業研究部(豊後大野)	4	研究普及課
H22.8.5	大分県茶品評会審査会	農業研究部(豊後大野)	8	大分県茶業協会
H22.8.6	茶業青年研修会	農業研究部(豊後大野)	9	大分県茶業青年会
H22.8.10	白ネギプロジェクト班会議	大分市	10	
H22.8.12	農業高校視察	三重町	25	
H22.8.19	白ネギ作型別品種検討会	三重町	11	
H22.8.20	小ネギプロジェクト班会議	大分市	12	
H22.8.25	ニンニク栽培暦検討会	大分市	12	
H22.8.25	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	杵築市	40	大分県園芸技術者協議会
H22.8.25	大分県茶品評会擬賞会議	県庁	10	
H22.8.25	いちご研修会	杵築市	50	県技術者協議会
H22.9.6	ピーマンの日	農業研究部(豊後大野)	4	研究普及課
H22.9.21	白ネギ研修会	三重町	20	
H22.10.7	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	イチゴチーム	40	大分県園芸技術者協議会
H22.10.15	きつき茶秋整枝研修会	杵築市	10	東部振興局
H22.10.27	ニラ巡回研修	杵築市	20	
H22.10.27	第1回イチゴ品種育成支援プロジェクト会議	イチゴチーム	15	生産者、全農、園芸振興室等
H22.10.28	大分ニラ連絡協議会担当者会議	大分市	25	
H22.10.29	東部地区イチゴフォーラム	杵築市	100	東部振興局
H22.10.29	高糖度かんしょ推進協議会	三重町	17	
H22.11.5	赤採りトマト栽培研修会	竹田市	20	豊肥振興局、みどり地域本部
H22.11.10	中国農業関係者試験場視察	三重町	2	
H22.11.11	イチゴの日	イチゴチーム	5	イチゴチーム

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H23.1.19	大分県園芸技術者協議会野菜部会にら技術	大分市	15	大分県園芸技術者協議会野菜部会
H23.1.25	小ネギプロジェクト班会議	大分市	14	
H23.1.28	大分県園芸技術者協議会イチゴ研修会	イチゴチーム	40	大分県園芸技術者協議会
H23.2.8	有機農業研究会研修会	宇佐市	100	大分県有機農業研究会
H23.2.16	ピーマン栽培技術研修会	豊後大野市	100	野菜生産者協議会ピーマン部会
H23.2.17	大分県茶業協会総会・研修会	杵築市	60	大分県茶業協会
H23.2.17	平成22年度九州・沖縄地区植物防疫関係者	大分市	50	九州・沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会
H23.2.24	イチゴの日	イチゴチーム	5	イチゴチーム
H23.3.1	大分県野菜生産者協議会にら部会研修会	佐伯市	90	大分県野菜生産者協議会にら部会
H23.3.3	第2回イチゴ品種育成支援プロジェクト会議	イチゴチーム	11	生産者、全農、園芸振興室等
H23.3.8	JAぶんご大野白ネギ部会研修会	三重町	12	
H23.3.9	土壌肥料・病害虫に関する研究会	大分市	30	おおいたブランド推進課
H23.3.10	大分県肥料商・農販協合同農事研修会	別府市	30	大分県肥料商・農販協
H23.3.11	大分茶グリーン研修会	豊後大野市千歳町	20	おおいた茶グリーン推進協議会
H23.3.14	トマト栽培技術研修会	竹田市	130	野菜生産者協議会トマト部会
H23.3.18	大分ニラ広域共販技術者協議会役員会	大分市	10	
H23.3.18	高糖度かんしょ推進協議会	三重町	16	
H23.3.29	施設園芸セミナー	農業研究部(豊後大野)	30	大分県食料・農業・農村振興協議会

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ

氏名	所属	研修内容	期間
小川弘ほか 3名	(株)サニープレイス ファーム	高糖度1段獲りトマト栽培研修	H23. 1. 21～H23. 4. 7

②短期研修及び視察対応

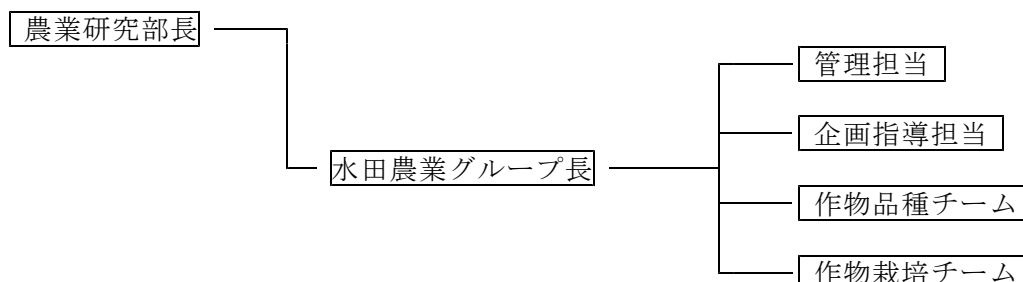
対象者	件数	受入人数
生産者	35	230
団体等職員	16	45
普及指導員	16	72
学生	4	14
海外研修者	0	0
その他	2	6
計	73	367

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
白ネギの中山間地域の周年安定生産技術の確立 (白ネギPT)	白ネギ新規産地における周年安定出荷のため、8月上旬からの安定出荷をめざした栽培体系の普及を図る。	研修等を通じて新作型による品質向上と優良品種の普及を図り、優良品種作付面積76ha、秀品率88%であった。
トマトの周年生産システムによる高糖度・多収技術の確立 (トマトPT)	企業参入者を中心に循環型保水シート耕によるトマト低段密植栽培技術を普及し、参入企業の経営安定を図る。	佐伯市の新規参入企業100aで技術の導入が出来、引き続き関係機関とともに支援し、実証技術活用による経営の安定を図っている。
秋摘み茶生産技術の確立 (茶業PT)	ドリンク用茶を対象に3番茶を収穫できない地域での秋摘み茶の生産技術を導入し、経営の補完を図る。	平成22年は8、9月の降水量が平年比22%と極めて少なく(豊後大野市三重町)、畑灌施設が整った大野町の1生産者のみ実施できた(20a,生葉収量200kg/10a(収量目標の2/3))。そのため、本年度も引き続き技術の推進を行う。
小ネギの安定多収穫を可能にする栽培条件整備総合実証 (小ネギ総合実証PT)	これまでの小ネギ栽培の成果を総合的に組み合わせた技術を普及し、単収向上、品質向上を図る。 特に排水対策などの土壌管理技術の普及を図る。	もみがら暗渠の排水効果の評価およびその構造維持の検証。 本技術を導入した味一ねぎ生産部会員12名について、1作、2作ともに土壌表面の滞水は認められず順調な生育を示した。但し、暗渠施工時に土壌水分が高かったため、下層土が表面に現れ、一部生育不良を呈した。 品種はストレート 倒伏0% ネギハモグリバエの食害：軽微であった。
中山間地域での粒剤体系による白ネギの軟腐病、白絹病防除対策 (白ネギ病害防除PT)	軟腐病に対し2カ所、白絹病に対し2カ所の実証圃を設置し、立枯れ性病害による減収を防ぎ、単収向上を図る。	生産者への周知が図られ、軟腐病、白絹病の被害を抑制できた。 (周知 ・西部管内 30/95人→70/95人 ・豊肥管内 10/20人→13人(法人)/20人(法人))
大分3号の現地移転 (大分3号普及PT)	「大分3号」を県内10圃場で栽培実証を行い、品質特性を把握するとともに生産者の評価を得る。	・予定されていた生産者10戸のうち2戸は栽培を行わなかったため、8戸の生産者に聞き取りを行った結果、全員(8戸)が次年度も栽培したい意向であった。 ・不受精果の発生要因として、草勢が考えられ、定植時期や摘葉、施肥技術での改善が可能である。

Ⅱ-2 水田農業グループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種		技師	労務技師	業務技師	計	備 考
	事務	技術					
グループ長		1				1	
管理担当	5		1			6	
企画指導担当		2				2	広域普及指導員 1
作物品種チーム		4	1			5	
作物栽培チーム		4	2		1	7	
計	5	11	4		1	21	

(3) 業 務

- ①水田農業の確立に関する試験研究
- ②水稲・麦・大豆の新品種育成及び栽培技術改善
- ③水稲・麦・大豆優良種子配布事業
- ④米・麦・大豆の安全安心技術に関する試験研究
- ⑤気象情報及び技術情報の管理と情報発信

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
「The・おおいた」ブランドを支える技術の開発と支援				
I ブランド化のための技術開発				
1 大分ブランド確立のための焼酎用大麦品種の開発	作物品種	大分県酒造組合	平17～26	政策
2 水稲・麦・大豆の品種選定	作物品種			
(1)水稲・麦・大豆の奨励品種選定				經常
(2)水稲、麦類系統適応性検定				經常
(3)水稲・麦・大豆の作柄判定				經常
(4)水稲・麦・大豆の除草剤選定				經常
II マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
3 有機農業適応技術の検証と品質への影響評価	作物栽培	土壌・環境 病害虫	平22～24	政策
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
4 儲かる水田輪作技術開発による土地利用型農業担い手経営安定支援	作物栽培	(独)九州 沖縄農業研 究センター	平19～22	政策

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
IV 地球温暖化・環境対策のための技術開発				
5 地球温暖化に対応した高温登熟耐性に優れる水稲早生品種の選定	作物品種		平20～24	政策
6 短日性農作物の光害を回避するLED屋外照明装置の開発	作物栽培	山口大学	平22	
V 地球資源の活用と省エネルギーの技術開発				
7 飼料米の低コスト・高タンパク・超多収栽培法の確立	作物栽培	畜産研究部	平21～23	政策
有機物等を利用した低コスト施肥				
(1) 稲麦体系における低コスト施肥技術	作物栽培	土壌・環境	平21～23	政策
研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
8 主要農作物等種子対策事業	作物栽培		平22～24	経常
(1) 稲、麦、大豆原種育成及び特別増殖圃設置事業				
(2) 稲、麦、大豆原種生産		全農大分県本部		

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成21年度(22年産)水田冬作試験成績書	H22. 8. 17	74	C D版50
平成22年度水田夏作試験成績書	H23. 3. 22	164	C D版50
栽培管理チラシ「これからの水稲栽培管理法」	H22. 8. 20	1	400
栽培管理チラシ「大豆の栽培管理情報」	H22. 8. 20	1	400

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 なし

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22. 4. 14	平成22年度農産物検査員育成研修	白石真貴夫	農産物の育種と品種・栽培等
H22. 9. 28	日本作物学会九州支部	菊屋良幸	焼耐用大麦「ニシノホシ」のSKCS硬度値の安定化のための栽培法
H22. 12. 3	ニシノホシ生産者勉強会	菊屋良幸	SKCS硬度に着目したニシノホシ栽培法の検討
H22. 12. 16	平成22年度日本農業気象学会中国四国支部大会	松色優・岩谷潔・山本晴彦・荊木康臣・近乗偉夫	定点観測画像によるLAI推定に関する研究
H23. 3. 2	平成22年度農林水産関係研究成果発表会	菊屋良幸	焼耐用大麦「ニシノホシ」の新たな品質評価法に着目した栽培法(ポスター発表)

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H22.6.3	農業機械操作研修（コンバイン）	水田農業グループ	6	農業大学校
H22.6.11	農業機械操作研修（田植え機）	水田農業グループ	4	農業大学校
H22.7.14	水稲栽培出張出前講座	豊肥振興局	25	
H22.7.23	生産技術セミナー	水田農業グループ	150	大分県食料・農業・農村振興協議会
H22.8.11	水稲栽培出張出前講座	東部振興局	30	
H22.8.27	つや姫現地検討会	農業文化公園	40	全農おおいた
H22.9.7	視察受け入れ	水田農業グループ	30	豊後大野市担い手支援協議会
H22.9.9	集落営農オペレーター研修	水田農業グループ	60	
H22.9.14	クロダマル、つや姫現地検討会	水田農業グループ	20	北部地区作物技術者協議会
H22.11.10	麦作研修会	水田農業グループ	100	
H22.11.11	視察受け入れ	水田農業グループ	11	鹿児島県生産者
H23.2.10	水稲の夏期における高温対策研修	水田農業グループ	40	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

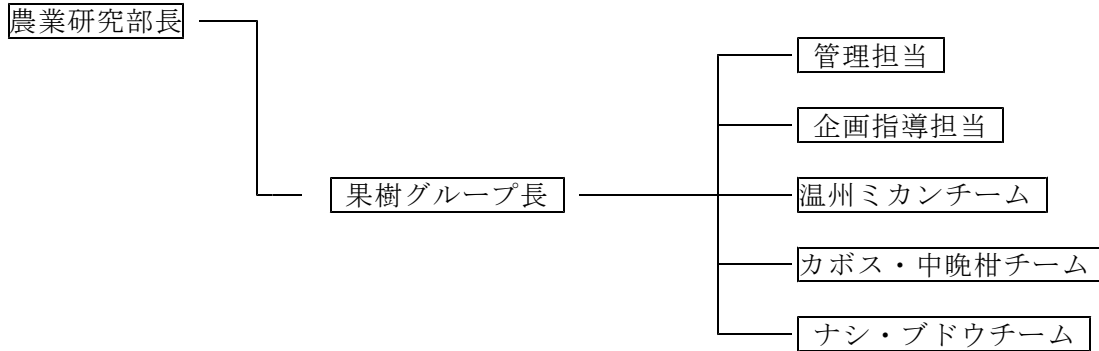
対象者	件数	受入人数
生産者	2	50
普及指導員	10	40
学生	2	8
計	14	98

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
地球温暖化に対応した高温登熟性に優れる水稲早生品種の選定	高温登熟耐性に強い早生品種として選定した「つや姫」の現地適応性を検証する	大規模実証11カ所、奨励品種決定現地調査圃場6カ所を設置 北部局管内の実証圃を中心に、生産者、関係機関への栽培講習会を開催
飼料用米の低コスト・高タンパク・超多収栽培法の確立	平坦地における飼料用米品種の適応性を検討するとともに、低コスト栽培法としての直播き栽培法の現地適応性を検討する	直播き現地実証圃 1カ所を設置
黒大豆等による特色ある大豆産地づくり	実需者との契約出荷が開始された黒大豆品種「クロダマル」の生産について、出荷量の確保と品質向上を目指した栽培技術指導	作成した栽培マニュアルを生産者へ配布するとともに、栽培研修会の開催 円滑な契約栽培推進への支援を行うため、生産者協議会における指導、助言

Ⅱ-3 果樹グループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織 \ 職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	広域普及指導員 2
管理担当	1					1	2	
企画指導担当		3					3	
温州ミカンチーム		4		1	1		6	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
ナシ・ブドウチーム		4	2		1		7	
計	1	16	2	2	2	1	24	

(3) 業務

- ① 温州ミカンの品種に関する試験研究
- ② 温州ミカンの露地栽培に関する試験研究
- ③ ハウスミカンに関する試験研究
- ④ 施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤ カンキツの土壌肥料に関する試験研究
- ⑥ カンキツの病害虫に関する試験研究
- ⑦ カンキツの品種に関する試験研究
- ⑧ 中晩生カンキツの露地栽培に関する試験研究
- ⑨ カンキツの病害虫に関する試験研究
- ⑩ 落葉果樹の品種に関する試験研究
- ⑪ ナシに関する試験研究
- ⑫ ブドウに関する試験研究
- ⑬ 落葉果樹の病害虫に関する試験研究

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題			
I	ブランド化のための技術開発				
1	果樹のオリジナル品種の育成	カボス・中晩柑チーム		22～24	県単
	1) 中晩生カンキツの育成選抜（一次選抜）				
	2) カボス3倍体の選抜				
	3) 育成系統適応性検定				
2	常緑果樹の品種適応性試験	カボス・中晩柑チーム	(独)果樹研	22～24	県単
	1) 中晩生カンキツ				
	(1) 第9・10回カンキツ系統適応性検定試験				
3	カンキツ新品種「大分果研4号」の高品質化技術	カボス・中晩柑チーム		21～25	県単
	1) 栽培特性の解明				
	(1) 葉果比と果実肥大・果実品質				
	2) 高品質化技術の確立				
	(1) 摘果時期と果実品質				
	(2) マルチ栽培における摘果程度				
	(3) 果皮障害の軽減				
	3) 「大分果研3号」の栽培特性の解明				
	(2) 収穫時期と貯蔵性				
	4) 「不知火」の高品質・高生産技術				
	(1) 樹上完熟栽培技術				
	(2) 貯蔵資材の検討				
	(3) パラフィン系資材散布による水腐れ症の軽減				
4	省エネ施設栽培に適するカンキツ新品種の選定と栽培技術確立	温州ミカンチーム		20～24	県単
	1) カンキツ新品種の選定				
	(1) 少加温栽培				
	(2) 無加温、屋根かけ栽培				
	2) カンキツ新品種の栽培技術確立				
	(1) 「大分果研4号」				
	(2) 「大分果研3号」				
	3) 既存栽培品種の栽培技術現地支援				
	(1) 「天草」の後期落果				
	(2) 「不知火」の果皮障害				
5	落葉果樹の品種適応性試験	ナシ・ブドウチーム	(独)果樹研	22～24	県単
	1) ナシ				
	(1) ナシ第8回系統適応性検定試験				
	2) ブドウ				
	(1) ブドウ第13回系統適応性検定試験				
	(2) ブドウ新育成系統の適応性				

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題			
6	次世代を担うナシ新品種の栽培技術確立		ナシ・ブドウチーム	22～24	県単
	1) 「なつしずく」の品種特性の解明と高品質果安定生産技術				
	(1) 好適着果番位の解明				
	(2) 収穫適期判定				
	(3) 短果枝、腋果芽別果実品質				
	(4) 着果管理法				
	(5) 果面障害回避法				
	①袋かけによる果面障害回避				
	②農薬散布による果面障害発生調査				
	(6) 新梢管理法				
	2) 「南水」の品種特性の解明と高品質果安定生産技術				
	(1) 収穫適期判定				
	(2) 短果枝、腋果芽別果実品質				
	(3) 着果管理法				
	(4) 新梢管理法				
	3) 「あきづき」の高品質果安定生産技術				
	(1) 収穫適期判定				
	(2) 着果管理法				
	(3) 新梢管理法				
	(4) 裂果発生要因解明				
	4) 「豊里」の高品質果安定生産技術				
	(1) 着果管理法				
	(2) 中間台木が果実品質に及ぼす影響				
	(3) 「豊里」栽培圃場調査				
	5) 新規導入品種の貯蔵適性の解明と貯蔵技術				
	(1) 「あきづき」「南水」の貯蔵適性の解明				
	(2) 「豊里」の低温貯蔵法				
7	ブドウ新品種「シャインマスカット」の高品質・安定生産技術		ナシ・ブドウチーム	21～25	県単
	1) 枝梢管理技術				
	(1) 花穂確保技術の確立(1年目)				
	(2) 花穂確保技術の確立(2年目)				
	2) 着果管理技術				
	(1) 効果的な結実管理法				
	(2) 収穫適期判定				
	(3) 果実の食感に及ぼす肉質調査				
	3) 貯蔵技術				
	(1) 貯蔵用果実の収穫適期				
	4) 収量向上技術				
	(1) 樹形による収量と果実品質の比較				

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I	大課題 1 中課題 1) 小課題				
II	マーケット起点のものづくりを支える技術開発				県単
8	生き残りをかけた高付加価値ミカン栽培技術	温州ミカンチーム		21~25	県単
	1) 「おおいた早生」の高品質生産技術確立				
	(1) 摘果と土壌水分管理				
	①摘果時期				
	②雨水の流入に対応した摘果時期				
	(2) 施肥方法				
	2) 完熟栽培の連年安定生産技術				
	(1) 系統特性の調査				
	(2) 袋かけ資材および時期の検討				
	(3) 完熟栽培に適した結実方法				
	(4) 完熟栽培に適した施肥方法				
	3) 遊休ハウスを利用した完熟栽培技術				
	(1) 現地調査				
9	カボスの多様な流通形態に対応する栽培・貯蔵技術	カボス・中晩柑チーム		22~24	県単
	1) 大型貯蔵庫の短期省力貯蔵技術の開発				
	(1) 大量包装資材の探索				
	(2) 大袋貯蔵資材の探索				
	(3) 小袋の低コスト資材の探索				
	(4) 予措法の改善				
	2) 黄カボスの安定生産・貯蔵技術の確立				
	(1) 連年結果可能な黄カボス生産技術				
	(2) 収穫時期と予措程度				
	(3) 収穫時期と貯蔵温度				
	(4) 貯蔵形態と貯蔵性				
	(5) 秋季病害虫防除対策				
	(6) 果実腐敗対策				
10	現地ニーズに対応した新着花予測法の緊急確立と栽培管理への応用	温州ミカンチーム		22~24	県単
11	カンキツにおける環境に優しい防除技術の確立	温州ミカンチーム		22~24	県単
	1) 露地カンキツ病害防除対策				
	(1) カンキツかいよう病の防除対策 ①展葉期				
	2) 露地カンキツ虫害防除対策				
	(1) ハダニ類 ①薬剤感受性調査				
	(2) アザミウマ類 ①薬剤感受性調査				
	3) 施設カンキツ病害虫防除対策				
	(1) ハダニ類				
	(2) ハマキムシ類				
12	有機農業支援研究	カボス・中晩柑チーム		22~24	県単
	1) カボスに関する栽培技術支援				
	(1) カボスに関する実態調査				

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題				
V 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
13 脱石油新暖房システムと果実炭素収支に基づく省エネ施設果樹栽培	温州ミカンチーム	九州大	21～23	委託
1) 新暖房システムの開発・評価と現地実証				
(1) 廃プラスチック燃料 (RPF) 利用型暖房システムの開発評価と実証				
①空気熱利用型ヒートポンプとの性能比較				
②放熱防止による燃焼効率の向上				
(2) 木質燃料利用型暖房システムの検討				
2) 果実内水収支と炭素収支の定量評価に基づく夜温管理の見直し				
(1) 定量評価値と夜温および果実品質との関連				
(2) 栽培管理指標の確立				
14 界面活性剤泡沫によるミカン二重被覆ハウスの省エネ技術の開発	企画指導担当		22	委託
1) 界面活性剤泡沫被覆による省エネ効果				
VI 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
15 農業情報 (生育状況) の提供	果樹グループ		長期	県単
1) カンキツの生態調査				
2) 落葉果樹の生態調査				
16 優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の供給	果樹グループ		長期	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
シャインマスカット栽培マニュアル (e-office)	H22.4	11	
平成22年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報CD版	H22.3	200	200

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
川野達生 福田賢二	大分県における果樹品種の動向と展望	果樹種苗	第122号	9-12
高盛俊介	晩生カンキツ'大分果研3号'の特性	園芸学会九州支部研究集録	17号	20
矢野 拓	ハウスミカン夏枝における花成遺伝子発現の変動	園芸学会秋季大会発表要旨	9巻別冊2	94
佐藤裕一	夜間昇温時間帯の違いがウンシュウミカン果実への物質集積に及ぼす影響	園芸学会秋季大会発表要旨	9巻別冊2	356
矢野 拓	ウンシュウミカン果実への物質集積に関する環境生理学的研究 第1報ハウスミカンの省エネルギー夜温管理の検討	生物環境工学会講演要旨	2010京都大会	100-101

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22.5.8	九州沖縄農業試験研究推進会議	釘宮 伸明	温暖化がブドウの着色に及ぼす影響とその対策
H22.9.19	園芸学会平成22年度秋季大会	矢野 拓	ハウスミカン夏枝における花成遺伝子発現の変動
H22.9.19	園芸学会平成22年度秋季大会	佐藤 裕一	ポスター発表 夜間昇温時間帯の違いがウンシュウミカン果実への物質集積に及ぼす影響
H22.9.8	日本生物環境工学会2010京都大会	矢野 拓	ウンシュウミカン果実への物質集積に関する環境生理学的研究第1報ハウスミカンの省エネルギー夜温管理の検討

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H22.3.2	県庁本館正庁ホール 大分市	4	171

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

(1) 講習会、研修会等の開催				
開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.4.28	屋根掛けデコボン栽培研修会	県南柑橘選果場	20	県南柑橘選果場
H22.5.28	佐伯豊南柑橘研究会研修会	JA佐伯八幡支店	25	佐伯豊南柑橘研究会
H22.6.3	大分果研4号研修会	カボス・中晩柑チーム	30	県南柑橘選果場
H22.6.11	カボス生産者協議会総会・研修会	豊の国健康ランド	23	食料・農業・農村振興協議会
H22.6.23	大分市ミカンバエ防除対策研修会	大分市	30	大分市
H22.6.24	臼杵市ミカンバエ防除対策研修会	臼杵市	15	臼杵市
H22.6.28	津久見市ミカンバエ防除対策研修会	津久見市	20	津久見市
H22.7.6	大分かぼす生産振興大会	JA大分のぞみ 春ホール	100	JAおおいた 大分のぞみ地域本部
H22.7.8	シャインマスカット栽培研修会	ナシ・ブドウT	7	北部振興局ブドウ後継者組織
H22.7.22	おおいた早生栽培研修会	杵築市	70	大分中央柑橘園芸連
H22.7.22	カボス研修会	杵築市	40	大分中央柑橘園芸連
H22.8.10	貯蔵カボス研修会	JAくにさき西部 地域本部	15	大分県カボス生産者協議会
H22.8.12	貯蔵カボス研修会	JA大分みどり 地域本部	20	大分県カボス生産者協議会
H22.8.27	シャインマスカット研修会	ナシ・ブドウT	15	園芸技術者協議会
H22.8.27	シャインマスカット研修会	ナシ・ブドウT	20	県ブドウ研究会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H22. 9. 15	天敵導入研修会（ハウスミカン）	佐伯市	20	県南ハウスミカン部会
H22. 9. 27	カボス生産者協議会役員・事務局員合同会議	全農会議室	20	大分県カボス生産者協議会
H22. 9. 29	ナシ貯蔵技術研修会	ナシ・ブドウT	15	園芸技術者協議会
H22. 10. 7	シャインマスカット研修会	ナシ・ブドウT	15	北部振興局
H22. 10. 29	天敵放飼実習（ハウスミカン）	佐伯市	10	県南ハウスミカン部会
H22. 11. 22	完熟デコボン研修会	カボス・中晩柑チーム	30	県南柑橘選果場
H22. 11. 24	ナシ剪定研修会	日田市	100	県なし研究会
H22. 11. 29	大分市ミカンバエ発生対策研修会	大分市	20	大分市
H22. 12. 9	落葉果樹剪定研修会	ナシ・ブドウT	15	園芸技術者協議会
H22. 12. 20	津久見市ミカンバエ発生対策研修会	津久見市	15	津久見市
H22. 12. 22	ハウスカボス研修会	J A大分のぞみ地域本部	12	大分県カボス生産者協議会
H23. 1. 7	デコボン貯蔵研修会	県南柑橘選果場	20	県南柑橘選果場
H23. 1. 11	カボス生産者協議会役員・事務局員合同会議	豊の国健康ランド	27	大分県カボス生産者協議会
H23. 1. 18	ピオーネ着色対策研修会	安心院町	50	安心院ブドウ部会
H23. 1. 25	天敵導入研修会（ハウスカボス）	佐伯市	10	県南カボス部会
H23. 1. 25	カボス地区別研修会	J A大分みどり地域本部	23	大分県カボス生産者協議会
H23. 2. 1	カボス地区別研修会	J A大分のぞみ地域本部	67	大分県カボス生産者協議会
H23. 2. 3	カボス地区別研修会	J Aくにさき西部地域本部	31	大分県カボス生産者協議会
H23. 2. 10	シャインマスカット研修会	安心院町	80	県ブドウ研究会
H23. 2. 18	シャインマスカットの栽培方法について	杵築市	60	大分県園芸技術者協議会
H23. 2. 24	津久見市認定農業者研修会	津久見市民会館	30	津久見市
H23. 3. 8	天敵放飼実習（ハウスカボス）	臼杵市	10	県南カボス部会
H23. 3. 10	カンキツ品種検討会	カボス・中晩柑チーム	25	園芸技術者協議会果樹部会
H23. 3. 17	果樹課題解決研修(県外研修報告)	大分第一ホテル	20	園芸振興室

（2）受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

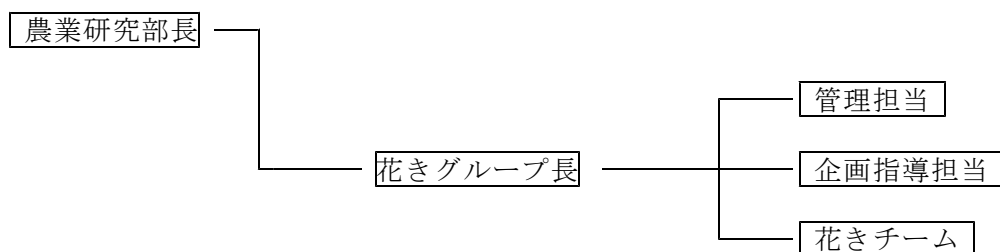
対象者	件数	受入人数
生産者	95	412
団体等職員	28	58
改良普及指導員（公務員）	68	118
学生	1	6
海外研修者	1	2
計	210	639

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
温州ミカンの半樹別交互結実による安定生産技術	温州ミカンの越冬完熟栽培における高品質果実の連年安定生産のために、半樹別交互結実法の普及を図る。	設定園地の着果負担が比較的少なく、浮き皮の恐れが出てきたため、園主の意向により、試験を12月2日で中断したが、その段階での品質は良好であった。
「大分果研4号」の生産技術	「大分果研4号」の高品質果実生産のために、マルチ栽培と適正摘果法の普及を図る。	研修会の開催や現地実証圃の活用により摘果方法(適正着果)およびマルチ設置を呼びかけた結果、マルチ設置率23%、L果以上比率81%であった。
輸出に向けたナシ「新高」の貯蔵技術	ナシ「新高」の輸出に向けた貯蔵において、果皮障害を回避するために、予措等の貯蔵技術指導を徹底する。	貯蔵技術マニュアルによる管理の徹底により果皮障害発生率 ほぼ0%となった。本年度は比較的天候にも恵まれたが、悪天候年でも黒あざ症を押さえるよう、管理の徹底を図る。

Ⅱ-4 花きグループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1		1			1	3	
企画指導担当		2					2	広域普及指導員 1 総括は企画指導担当 が兼務
花きチーム		6	2		1		9	
計	1	9	3		1	1	15	

(3) 業 務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②花きの研究成果の現地普及
- ③花き優良種苗の供給
- ④花き指導者、生産者に対する指導

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
① ブランド化のための技術開発				
<新品種の育成>				
1 キクの育種と優良系統の選抜				
1) 夏秋輪ギク交配系統の選抜	花きチーム		22～24	県単
2) 夏秋小ギク交配系統の選抜	花きチーム		22～24	県単
3) 主力白色品種の系統選抜	花きチーム		22～24	県単
2 ヤマジノギクの育種				
1) 新しい系統の作出	花きチーム		22～24	県単
2) 出荷期間拡大のための技術確立	花きチーム		22～24	県単
3 ホオズキの育種				
1) 優良系統の作出	花きチーム		20～22	県単
2) 適正施肥量の検討	花きチーム		20～22	県単
3) 誘引方法の検討	花きチーム		20～22	県単
4) ウイルス病(TMGMV) 対策	花きチーム		20～22	県単
<優良品種の選定と栽培技術確立>				
4 アルストロメリアの省力安定生産技術の確立				
1) 新品種の特性調査	花きチーム		20～22	県単
② マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1 花き類の新病害虫の同定と環境保全型防除技術の確立				
1) 病害虫診断と新病害虫の同定	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単
2) 病害虫の効率的防除法確立	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単・受託
3) 環境保全型防除技術の確立	花きチーム	病害虫チーム	22～24	県単
③ 力強い担い手を育成するための技術開発				
1 バラの低コスト栽培技術の確立				
1) 低温開花性品種の選定	花きチーム		21～23	県単
2) 整枝・剪定方法の改善	花きチーム		21～23	県単
3) 密植栽培技術の確立	花きチーム		21～23	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
<優良種苗等供給>				
1 トルコギキョウオリジナル品種				
1) 交配と増殖	花きチーム		22～24	県単
2) 優良オリジナル品種の作型適応性	花きチーム		22～24	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行 なし

(2) 学会誌、専門誌への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
吉松 修治	トルコギキョウの春出荷作型における高昼温・低夜温管理	九州沖縄農業研究成果情報	第25号	245
甲斐 千代	切り花ホオズキの適正施肥量	九州沖縄農業研究成果情報	第25号	247
石神 愛	アルストロメリアの有望品種	九州沖縄農業研究成果情報	第25号	249
吉松 修治	トルコギキョウの高昼温・低夜温管理	園芸学研究	第9巻	294

(3) 研究会、学会等での発表

年月日	研究会、学会等名称	発表者	発表課題名
H22. 9. 26	園芸学会秋期大会	吉松修治	トルコギキョウの高昼温・低夜温管理

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H23. 3. 2	県庁本館 正庁ホール	1	171

3. 研究成果の普及、技術指導

当該年度中に当研究所で開催（主催・共催）した講習会、研修会等を対象とする。

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者	備考
H22. 4. 16	農協花き協議会ホオズキ部会	全農	29	
H22. 4. 28	趣味の園芸講座	花きグループ	33	
H22. 5. 21	趣味の園芸講座	〃	21	
H22. 6. 17	小ギク栽培研修会	〃	35	
H22. 6. 18	趣味の園芸講座	〃	12	
H22. 6. 22	県技協ホオズキ研修会	杵築市	31	
H22. 6. 24	大分県オリジナルトルコギキョウ生産流通「匠」部会設立・研修会	花きグループ	32	
H22. 6. 24	花壇苗生産者協議会	安心院町	13	
H22. 7. 16	別府花き園芸組合研修会	花きグループ	22	
H22. 7. 29	ヤマジノギク出荷協議会研修会	〃	38	
H22. 7. 30	趣味の園芸講座	〃	6	
H22. 8. 17	ヤマジノギク出荷協議会研修会	〃	35	
H22. 8. 23	オリジナルトルコギキョウ現地研修会	竹田市	27	
H22. 8. 31	県技協ホオズキ生産振興研修会	花きグループ	42	
H22. 9. 6	小ギク系統選抜研修	〃	14	
H22. 9. 28	県技協バラ研修会	由布市	27	
H22. 9. 29	トルコギキョウ研修	花きグループ	18	
H22. 9. 30	ホオズキ販売反省会	全農	36	
H22. 9. 30	ヤマジノギク取引会議	〃	28	
H22. 10. 7	ヤマジノギク芽揃い会	玖珠町	60	
H22. 10. 15	趣味の園芸講座	花きグループ	30	

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者	備考
H22. 10. 20	小ギク系統選抜研修会	花きグループ	16	
H22. 10. 27	ホオズキ生産者部会	別府市	26	
H22. 11. 2	ホオズキ良質苗生産研修	花きグループ	14	
H22. 11. 15	JA 玖珠九重キク部会反省会	〃	15	
H22. 11. 18	トルコギキョウ販売会議、技術研修会	〃	38	
H22. 11. 19	趣味の園芸講座	〃	30	
H22. 12. 2	小ギク生産者研修会	別府市	30	
H22. 12. 14	ヤマジノギク中間検討会、品種検討会	花きグループ	20	
H22. 12. 17	趣味の園芸講座	〃	36	
H23. 2. 25	趣味の園芸講座	〃	30	
H23. 3. 17	ヤマジノギク実績検討会他	〃	29	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期受入研修及び視察対応

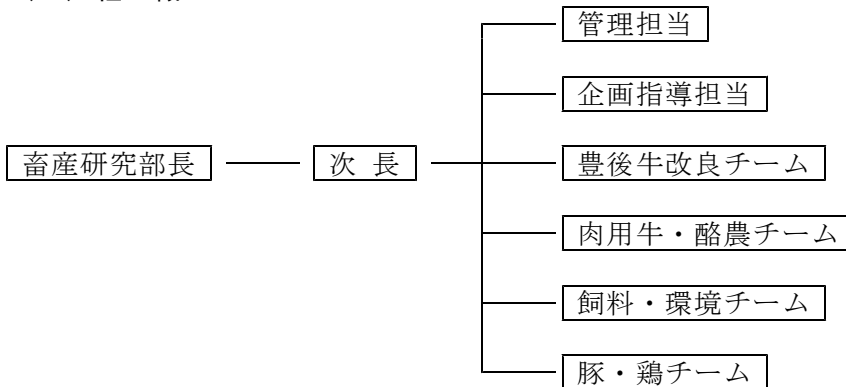
対象者	件数	受入人数
生産者	10	103
団体等職員	3	8
普及員指導員	3	29
学生	7	28
海外研修者	5	155
計	28	323

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
高冷地における杉皮バークを使った切り花ハボタンの栽培確立	九重町飯田で杉皮バークを使った切り花ハボタンの栽培を行い、12月に品質面で市場性の高いものが生産されるか検証する。	11月25日には栽培した3品種（「晴姿」、「初紅」、「ルシールワイン」）の草丈が90cmに達し、目標とする草丈60cm以上を確保した。葉色、草姿等の品質についても問題は無かった。
トルコギキョウ立枯病（フザリウム属菌）に対する土壌消毒技術の確立	近年、土壌消毒を行ったにもかかわらず立枯病が多発する圃場が見られるため、有効な土壌消毒技術の確立を図る。	太陽熱消毒にくん蒸型土壌消毒剤（ダゾメット粉粒剤）を併用して土壌処理を行った。平年と比較して立枯れが13%減少し、防除効果の改善が認められた。

Ⅱ－5 畜産研究部

(1) 組織



2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
部 長	長		1					1	
次 長	長	1	1					2	
管 理 担 当	担当	3						3	
企 画 指 導 担 当	担当		4					4	広域普及指導員 2
豊 後 牛 改 良 チ ー ム	チーム		6	2	6			14	広域普及指導員 1
肉 用 牛 ・ 酪 農 チ ー ム	チーム		5	8	2			15	
飼 料 ・ 環 境 チ ー ム	チーム		4	5				9	
豚 ・ 鶏 チ ー ム	チーム		7	4	2			13	
計		4	28	19	10			61	

(3) 業 務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚、家禽の育種並びに飼養管理技術

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
ア 消費者の心をつかむ商品（もの）づくり				
I 流通の多チャンネル化に対応した高付加価値品目の開発				
1 自給飼料による牛肉生産技術の検討				
1) 体質制御による地域草資源高度活用型ブランドビーフの開発	肉用牛・酪農 飼料・環境	九州大学	H20～22	県単
2 高品質、低コストな大分県産地鶏生産技術の確立				
1) 「おおいた冠地どり」に対する飼料米利活用技術の確立	豚・鶏		H21～22	県単

試験研究課題名				担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目				
II バイオ技術等を駆使したオリジナル品種と育種素材の開発 (肉用牛改良)							
	3	経膈採卵	体外受精による良品質胚生産の検討	肉用牛・酪農	神奈川県、奈良県、高知県、山口県、宮崎県	H21～23	県単
	4	ウシ膈内留置型ホルモン製剤に着目した繁殖技術向上に関する研究		肉用牛・酪農	青森県、秋田県、宮城県、神奈川県、静岡県、奈良県、京都府、徳島県	H22～H24	県単
	5	黒毛和種の育種改良					
		1)	OPU-IVF技術を応用した種雄牛造成	改良・肉酪		H20～24	県単
	6	豊後牛DNA育種技術の開発					
		(ア)	黒毛和種飼料効率に関するゲノム解析	豊後牛改良	(社)畜産技術協会	H21～23	県単
		2)	新たな脂肪交雑責任遺伝子の同定、効果判定および育種への応用の検討	豊後牛改良		H20～22	県単
(豚改良)							
	7	高品質豚生産のための種豚改良					
		1)	ランドレース種の系統維持、増殖	豚・鶏		H19～23	県単
		2)	大ヨークシャー種の改良増殖	豚・鶏		H19～23	県単
		3)	デュロック種の改良増殖	豚・鶏		H21～23	県単
	8	免疫機能に着目したブタ繁殖技術向上に関する研究		豚・鶏	鹿児島県、沖縄県	H22～H24	県単、受託
III 優良品種・系統の選定							
	9	優秀種雄牛の造成					
		1)	種雄牛検定(直接検定法、現場後代検定法)	豊後牛改良		長期	県単
	10	牧草・飼料作物の奨励品種選定試験					
		1)	とうもろこし	飼料・環境	(独)九州農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
		2)	イタリアンライグラス	飼料・環境	(独)九州農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
		3)	ソルガム	飼料・環境	(独)九州農研セ、九州各県	S55～長期	県単、受託
V 低コスト・高品質化生産技術の確立 (肉用牛)							
	11	高品質牛肉生産技術の開発					
		1)	子牛の育成期及び肥育期の栄養水準が黒毛和種去勢若齢肥育牛の発育・枝肉成績に及ぼす影響	肉用牛・酪農		H21～23	県単
		2)	とよのくに一本化体系が肥育農家の飼料給与作業及び黒毛和種去勢牛の発育・枝肉成績に及ぼす影響	肉用牛・酪農		H21～22	県単
	12	耕作放棄地解消後の圃場における周年放牧の確立		飼料・環境	(独)九州農研セ	H22～H23	県単、受託
(酪農)							
	13	自給飼料を利用した高品質生乳生産技術の確立					
		1)	飼料米を利用した乳用牛の飼養技術の確立				
		(ア)	飼料米の貯蔵技術の確立	飼料・環境		H21～23	県単
		(イ)	飼料米の乳用牛への給与	肉用牛・酪農		H21～23	県単
(草地及び牧草飼料作物)							
	14	夏及び冬季の牧草・飼料作物の栽培体系の確立					
		1)	ソルガムの糸黒穂病及び麦角病の蔓延防止技術の開発と農家現場への導入実証	飼料・環境	(独)九州農研セ	H18～22	委託(独九州農研セ)
	15	粗飼料の増産					
		1)	永年草地の裸地化改善と生産性向上技術の確立	飼料・環境		H21～23	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
ウ 地域資源の活用と産業間の連携によるニュービジネスの創造				
I 新たな産業・地域連携による地域資源の活用支援				
16 安全・安心で環境に優しい飼料生産技術の開発				
1) 稲発酵飼料及び焼酎粕濃縮液混合飼料の利用技術の確立				
(7) 稲発酵粗飼料、焼酎粕濃縮液混合飼料調整方法の確立	飼料・環境		H22～H24	県単
(4) 肉用牛への給与技術の確立	肉用牛・酪農		H22～H24	県単
(9) 乳用牛への給与技術の確立	肉用牛・酪農		H22～H24	県単
2) 西南暖地に向けたアルファルファの品種選定と栽培技術の検討	飼料・環境		H20～22	県単
3) カバークロップを利用した無農薬、高収量飼料用とうもろこし栽培技術の確立	飼料・環境		H20～22	県単
4) 細断型ロールペーラを利用したTMR製造技術の確立	飼料・環境		H20～22	県単
17 地域資源循環型養豚の飼養管理技術の開発				
1) 飼料米を利用した豚飼養技術の確立	豚・鶏 草地飼料	佐賀県、長崎県、熊本県	H21～23	県単、受託
18 未利用資源の畜産業への有効活用技術の確立				
1) 豚における焼酎粕(表)の給与法及び肉質に及ぼす効果	豚・鶏	ぶんご有機肥料(株)、産業科学技術センター	H20～22	県単
XII 環境負荷軽減技術の確立				
研究分野における基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
19 特殊家禽の安定生産技術				
1) 原種禽の系統維持及び増殖	豚・鶏	熊本農研、宮崎畜試	H元～長期	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
Tetsuji Okazaki, Toshihiro Mihara, Youko Fujita, Shuji Yoshida, Hisanori Teshima, and Masayuki Shimada	Polymyxin B neutralizes bacteria-released LPS and improves the quality of boar sperm during liquid storage and cryopreservation	Theriogenology	74(9)	1691-1700
Toshihiro Mihara, Keita Fukumoto, Tetsuji Okazaki and Masayuki Shimada	Murine Sperm Expresses Toll-like Receptor (TLR) Family that Responds to the Pathogens Released from Virus, and Decreases Fertilization Ability by the Stimuli	Journal of Mammalian Ova Research	27	136-143
内村 誠	インターネットを活用した放牧飼養管理における牛の個体位置識別技術の開発	九州沖縄農業研究成果情報	第25号	109-110
金丸 英伸	センチピードグラスとイタリアンライグラスを基幹とした周年放牧	九州沖縄農業研究成果情報	第25号	111-112
久々宮公二	研究紹介～大分県の畜産情勢と試験研究～	日本暖地畜産学会報	第53巻 第1号	1-3
岡崎 哲司、島田昌彦	我が国の人工授精の実施状況と将来展望	養豚の友	5月号	18-22
Okazaki T, Akiyoshi T, Kan M, Teshima H, Shimada M.	Cryopreservation of boar epididymal spermatozoa; Addition of seminal plasma to thawing solution improves reproductive performance by artificial insemination.	Reproduction, Fertility and development	Vol. 23 (1) 2011	146
岡崎 哲司	ブタ凍結精液を用いた人工授精技術の最前線	大分県獣医師会会報	第21号	105-106

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成21年度大分県畜産試験場試験成績報告書(要旨集)	H22.2	8	150

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22.10.16~17	第3回日本暖地畜産学会大分大会(別府市)	岡崎哲司	ブタ凍結精巢上体精子を精漿含有融解液で人工授精すると繁殖成績が向上する
		鶴岡克彦	カバークロープとしてのヘアリーベッチの処理方法が無農薬栽培を行った飼料用トウモロコシの生育及び雑草発生の効果
		内村 誠	乳牛における暑熱対策としての繊維分解酵素投与および第一胃刺激用具使用の効果
H22.11.26	平成22年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会(大分市)	塩崎洋一	企業参入を機とした和牛肥育技術の再構築
		佐藤邦雄	超音波診断装置を用いた黒毛和種肥育牛の脂肪交雑判定法精度向上への取り組み
		鶴岡克彦	簡易草地更新機による不耕起栽培及び株間のばらつきが飼料用トウモロコシの生育に及ぼす影響
		岡崎哲司	ブタ凍結精液を用いた人工授精技術の確立
H23.1.8-12	国際胚移植学会(IETS)(米国オークランド市)	Tetsuji Okazaki, Teiichi Akiyoshi, Masakazu Kan, Hisanori Teshima, and Masayuki Shimada	Cryopreservation of boar epididymal spermatozoa; Addition of seminal plasma to thawing solution improves reproductive by artificial insemination (ポスター)
H23.3.2	平成22年度農林水産関係研究成果発表会(大分市)	阿南加治男	「おおいた冠地どり」に対する飼料米利活用技術の確立
		中島伸子・内村 誠	飼料用米を利用した乳用牛の飼養技術の確立 ア. 飼料用米の貯蔵方法の確立
		渡邊直人	DNA育種を応用した種雄牛づくり(ポスター)
		岡崎哲司	豚の凍結精液を利用した人工授精技術
H23.3.16	第94回 日本養豚学会	岡崎哲司	ブタ精巢上体精子の凍結保存

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	H22.11.26	大分県庁正庁ホール	4	100
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H23.3.2	大分県庁正庁ホール	口頭2、 ポスター1、 学位1	171

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.4.15	竹田市肉用牛女性部連絡協議会講演会	竹田市	60	
H22.4.16	平成22年度東部家畜人工授精師協議会研修会	別府師	30	
H22.4.19	豚・鶏採血研修	畜産研究部	4	受託:家畜衛生飼料室
H22.4.23	九重町飯田農協畜産振興会研修会	九重町	50	
H22.5.18	直入町畜産婦人部連合協議会研修会	竹田市	40	
H22.5.27	稲発酵粗飼料イネ(WCS)栽培等講習会	豊後大野市	14	豊後大野市(水田協議会)
H22.6.10	竹田市家畜人工授精師研修会	竹田市	40	
H22.6.24	養鶏研修	大分市	34	
H22.7.6	竹田市久住町改良組合研修会	竹田市	30	
H22.7.9	養豚研修	別府市	47	
H22.7.30	由布市庄内町改良組合研修会	由布市	25	
H22.7.30	佐伯市肉用牛部会研修会	佐伯市	42	
H22.8.31	養豚研修	大分市	17	
H22.9.9	牛の繁殖技術研修会	畜産研究部	9	受託:家畜衛生飼料室
H22.9.16	牛の繁殖技術研修会	畜産研究部	6	受託:家畜衛生飼料室
H22.10.6	飼養管理研修	畜産研究部	2	
H22.10.14	中津下毛肥育部会講習会	中津市	15	
H22.10.20	J A 日田肉用牛部会研修会	日田市	20	
H22.10.29	和牛交配研修	畜産研究部	17	
H22.11.1~5	豚凍結精液技術研修	畜産研究部	1	受託:沖縄県
H22.11.1~3	豚凍結精液技術研修	畜産研究部	1	受託:鹿児島県
H22.11.1~12.1	家畜人工授精講習会	畜産研究部	15	受託:家畜衛生飼料室
H22.11.12	J A 玖珠九重松木第2畜産小組合研修会	畜産研究部	18	
H22.11.15	豊後大野市朝地町十頭会研修会	畜産研究部	8	
H22.11.24	竹田市久住町畜産婦人部研修会	竹田市	38	
H22.12.1	竹田市畜産婦人部研修会	竹田市	43	
H22.12.7	佐伯市肉用牛部会研修会	畜産研究部	20	
H22.12.9	カウライフ研修会	畜産研究部	10	
H22.12.10	超音波画像診断研修	畜産研究部	10	
H22.12.15	受精卵移植技術研修会	畜産研究部	14	
H22.12.16	久住町はなぐり会研修会	畜産研究部	25	
H22.12.17	九重町肉用牛部会研修会	畜産研究部	20	

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H23.1.21	九重町飯田畜産部会研修会	畜産研究部	20	
H23.1.24	大分みどり和牛振興会久住支部研修会	竹田市	70	
H23.1.25	西部家畜人工授精師研修会	玖珠町	40	
H23.2.4	肉用牛改良研修会	別府市	100	共催：県肉用牛改良組合連合会 県家畜人工授精師協会
H23.2.15	飼料稲（WCS）給与技術研修会	佐伯市	40	南部振興局
H23.2.17	玖珠・九重育種組合研修会	畜産研究部	20	
H23.2.18	九重町和牛育種組合南山田地区研修会	九重町	25	
H23.2.24	飼料作物の省力栽培・省力管理技術研修会	畜産研究部	13	
H23.2.24	肥育技術研修会	畜産研究部	12	
H23.2.25	豊後大野市家畜人工授精師研修会	竹田市	19	
H23.3.8	草地簡易更新技術現地研修会	畜産研究部	20	豊肥振興局
H23.3.23	肥育技術研修会	竹田市	7	

（２）受入研修

①長期研修受け入れ

氏名	所属	研修内容	期間
清原 義智	速見郡日出町	後継者養成研修	H22.4.15～H22.3.16

②短期研修及び視察対応

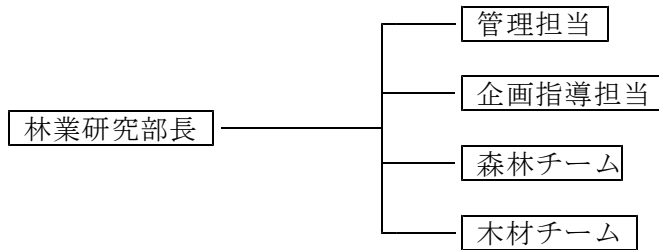
研修名	件数	受入人数
生産者	3	4
団体等職員	2	3
普及指導員	5	13
学生	8	113
海外研修者	1	24
その他	2	15
計	21	172

（３）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
「超音波画像診断装置」を用いた生体肉質画像診断	超音波画像診断を用いて生体肥育牛の肉質を診断し、一般出荷の飼養管理及び枝肉共励会の選抜に活用し、豊後牛のブランド確立を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・JA系統肥育センター巡回 ・県肉牛枝肉共励会等の出品牛の選抜 ・全農及び県関係機関担当者を対象に「生体肉質画像診断研修会」を開催
酪農家等における経膈採卵－体外受精による後継牛等生産に向けた技術支援	現地農家での経膈採卵（OPU）と性別別精液を用いた体外受精（IVF）による体外受精卵移植技術の普及	2戸延べ12頭採卵、21頭に移植
耕作放棄地解消のためのレンタカウ等の現地支援	耕作放棄地の解消及び「おおい型放牧」の普及を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタカウ2頭貸出し（由布市） ・「おおい型放牧」実施カ所 201カ所
豚凍結精液技術の現地実証	大分県で開発した豚凍結精液の技術の普及	現地実証を2戸の養豚農家で実施し、受胎率は平均で75%、産子数は平均10.8頭であった。

Ⅱ－6 林業研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職種		技師	労務技師	業務技師	計	備考
	事務	技術					
部長		1				1	
管理担当	2		1			3	
企画指導担当		3				3	広域普及指導員 1
森林チーム		4			2	6	
木材チーム		6				6	
計	2	14	1		2	19	

(3) 業務

- ① 育種・育林の新技术の開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

1. 平成22年試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
「The・おおいた」ブランドを支える技術の開発と支援				
ア 消費者の心をつかむ商品(もの)づくり				
IV 優良品種・系統の選定				
1 優良苗木の育成				
(1) DNA分析によるスギ品質管理型林業に関する研究	森林チーム		平21~23	県単
イ 時代に対応する新たな農林水産業のしくみづくり				
VII 森林の育成と需要に応じた木材加工技術の確立				
2 スギの効率的な乾燥法の開発				
1) 大分方式乾燥による平角材の最適な乾燥材生産システムの開発	木材チーム		平21~23	県単
3 県産スギ材の新たな活用法の検討				
1) 県産スギ材による簡易ハウスの開発	木材チーム	大分大学	平20~22	県単 (C-プロ)
2) 土木用県産スギ材の性能評価と開発	木材チーム		平21~23	県単
3) 県産スギ材の家具等への用途開発に関する研究	木材チーム		平22~23	県単
4) より安全で使いやすい学校家具の検証と研究	木材チーム		平22~23	県単
ウ 地域資源の活用と産業界間の連携によるニュービジネスの創造				
X 新たな産業・地域連携による地域資源の活用支援				
4 資源の活用技術の検討				
1) 大径クスギ材の利用技術の開発	木材チーム		平21~23	県単 (C-プロ)
2) 県産竹材のくん煙処理による耐久性向上技術に関する研究	木材チーム		平22~23	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
エ 県民が多面的機能を共有できる農山漁村の整備				
X II 豊かな資源を維持増進する技術の開発				
5 森林病虫獣害対策				
1)モデル集落におけるシカ被害軽減対策に関する研究	森林チーム		平20~22	県単
2)囲いワナによるニホンジカの捕獲に関する研究	森林チーム		平21~22	県単
3)健全な森林の維持・確保のためのスギ集団葉枯れ症の実態解明	森林チーム		平22~24	県単
6 再造林放棄地の機能回復手法の確立				
1)再造林放棄地の解消に向けた省力的な造林技術に関する研究	森林チーム		平21~25	県単
(1)省力的な造林技術に関する研究				
(2)省力的な下刈技術に関する研究				
7 森林吸収源対策				
1)森林吸収源インベントリ情報整備事業	森林チーム		平18~22	受託(森総研)
2)フルボ酸鉄による藻場造成力実証試験	森林チーム		H22	県単
研究分野における基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
1)スギ花粉発生源調査事業	森林チーム		平22	受託(全林協)

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
第52号 平成21年度林業試験場年報	H22. 8. 26	56	550
第72号 平成22年度林試だより	H22. 9. 29	8	1,300
スギ品種の高齢級特性を生かした長期育成循環施業のすすめ	H22. 10. 28	2	1,000

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
山田 康裕	スギ品種ウラセバルとアオスギの高齢級特性	九州森林研究	第64号	4
北岡 和彦	ニホンジカによる樹皮剥皮防止のための間伐材の利用	九州森林研究	第63号	2
山本幸雄ほか	スギ積層パネルを用いた簡易ハウスの開発(その3) 基準ユニットの面外曲げ実験	日本木材学会九州支部	第17回(講演集)	2
豆田俊治ほか	実用規模の高周波蒸気複合乾燥機によるスギ平角材の乾燥材品質	日本木材加工技術協会	第28回(講演集)	2
城井秀幸	木の学校づくりシンポジウム「木の学校のすすめ ー中津モデルから学ぶ地材地建ー」	木科学情報	18巻1号	2
山本幸雄ほか	スギ積層パネルを用いた簡易組立工法の開発特集 「大分方式乾燥材の原木市場を活用した安定供給モデルの構築」新生産システム木材	日本木材学会	第61回(講演集)	2
城井秀幸ほか	安定供給システム(大分モデル圏域)第9節 高品質材の安定供給システムの調査検討	森林誌研究	第15号	9

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22. 10. 8～9	第66回日本森林学会九州支部大会	山田 康裕	スギ品種アオスギとウラセバルの高齢級特性
H22. 8. 30～31	第17回日本木材学会九州支部大会	山本幸雄ほか	スギ積層パネルを用いた簡易ハウスの開発 (その3) 基準ユニットの面外曲げ実験
H22. 9. 16～17	平成22年度産業技術推進会議製造プロセス部会 第18回塗装工学分科会	大野 善隆	スギ内装材の開発 (スギの草木染め着色塗装と製品開発)
H22. 10. 7～8	(社) 日本木材加工技術協会第28回年次大会	豆田俊治ほか	実用規模の高周波蒸気複合乾燥機によるスギ平角材の乾燥材品質
H23. 3. 18～20	第61回日本木材学会大会	山本幸雄ほか	スギ積層パネルを用いた簡易組立工法の開発

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度農林水産研究指導センター林業研究部研究発表会	H23. 2. 22	林業研究部	6	60
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H23. 3. 2	県庁本館 正庁ホール	1	171

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考 (共催、要請機関等)
H22. 4. 7	2×4流通勉強会	佐伯広域森林組合	7名	佐伯広域森林組合職員等
H22. 6. 2	木材乾燥勉強会	佐伯広域森林組合	7名	佐伯広域・大野郡森林組合職員等
H22. 6. 8	木材乾燥技術(大分方式乾燥材)に関する研修会	山口県	20名	山口県内の製材業者等
H22. 6. 9	木材乾燥勉強会	佐伯広域森林組合	5名	佐伯広域森林組合職員等
H22. 6. 10	木材乾燥勉強会	大野郡森林組合	4名	大野郡森林組合職員等
H22. 6. 17	普及指導員試験研修会	林業研修所	4名	林業関係職員
H22. 7. 21	企業技術研修会(突板とその2次製品)	林業研究部	29名	木材・木製品製造業者等
H22. 7. 22～23	広域普及指導員プロジェクト研修	林業研究部	12名	普及指導員等
H22. 7. 23	品種管理型林業研修会	日出総合庁舎	15名	別杵速見林研グループ員等
H22. 7. 29	ふれあい森林講座	林業研究部	65名	小学生
H22. 8. 6	木材乾燥研修会	大野郡森林組合	14名	大野郡森林組合加工職員等
H22. 9. 6～7	提案型集約化施業研修会	西部振興局	70名	各森林組合職員等
H22. 9. 30	品種管理型林業研修会	安心院町中央公民館	20名	宇佐地区森林組合員等
H22. 10. 12、14	大分県立日田林工高校講義「最近の塗装技術」	日田林工高校	25名	日田林工高校生
H22. 11. 5	品種管理型林業研修会	西高森林組合	20名	西高森林組合員等
H22. 11. 14	女性建築士会木材利用視察研修	林業研究部	30名	女性建築士他
H22. 11. 18	森林教室講師	朝日小学校	10名	小学生
H22. 11. 21	TOS ダッシュ君 (番組出演: 森林・木材と環境)	林業研究部	5名	一般(12/2放映)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H22. 11. 24～26	スギ横架材スパン表説明会	県下6地区	300名	県下工務店、設計士等
H22. 12. 7～21	スギ横架材スパン表個別説明会	県下18箇所	31名	県下工務店18社
H22. 12. 8～27	林業職員実務研修	林業研究部	4名	林業職員
H22. 12. 10	品種管理型林業研修会	院内町農産交流センター	70名	県北地区森林森林所有者等
H22. 12. 21	工務店との意見交換会	林業会館	11名	県内工務店8社
H22. 12. 22	木材乾燥講習会講師	日田市役所	20名	製材関係者等
H23. 1. 27	大分高等技術専門校講義「木材乾燥」	大分高等技術専門校	50名	高等技術専門校生
H23. 1. 28	大分県立日田林工高校講義「最近の加工木材」	日田林工高校	50名	日田林工高校生
H23. 1. 30	木造建築の担い手育成セミナー視察研修	林業研究部	30人	九州内の大学生
H23. 2. 18	製材品の品質管理・表示体制の整備のための研修会	日田木材協同組合	50人	県内の製材関係業者

（２）受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

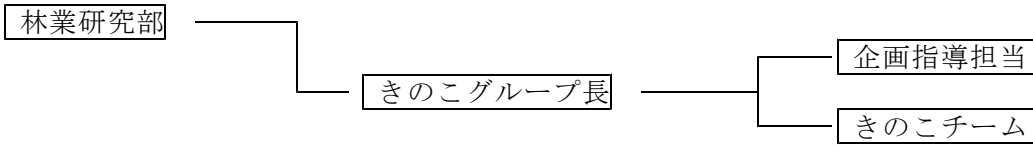
対象者	件数（件）	受入人数（人）
生産者	14	351
普及指導員	3	20
学生	6	230
その他	31	474
計	54	1,075

（３）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
品質管理型林業に向けたスギ奨励品種に関する実践的研究	優良なスギ品質の供給体制を構築するため、DNA分析に基づくスギ奨励品種の導入を推進する。	県北・東部を重点地域とした奨励品種推進の研修会を4回実施し、参加者は115名であった。
スギ大径材の性能評価と用途開発に関する研究	横架材に対する県産スギ材の需要拡大を図るため、スギ横架材スパン表の活用を推進する。	県下6ブロックで研修会を6回実施し、参加者は435名であった。 併せて、地場工務店20社へのスギ横架材スパン表の活用推進活動を実施した。

Ⅱ-7 きのことグループ

(1) 組織



(2) 職員配置状況

組織	職 員		技師	労務技師	業務技師	計	備 考
	事務	技術					
グループ長		1				1	
企画指導担当		3				3	広域普及指導員2
きのこチーム		5			1	6	
計		9			1	10	

(3) 業 務

- ① シイタケを始めとするきのこ類の栽培技術の改善・開発
- ② 栽培きのこ類の育種技術による品種の改良・開発
- ③ 温暖化に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発
- ④ 乾シイタケの効率的な乾燥技術(省エネ)の改善
- ⑤ クヌギチップを利用した菌床生シイタケ培地の研究
- ⑥ 病虫害等の防除技術の研究・普及
- ⑦ きのこと類の分類・同定
- ⑧ 有用きのこ類の遺伝子収集・保存による育種素材の確保
- ⑨ 研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑩ 新規参入者の研修・技術指導
- ⑪ 栽培技術情報の収集・管理と情報発信

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名	担 当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題				
「The・おおいた」ブランドを支える技術の開発と支援				
ア 消費者の心をつかむ商品(もの)づくり				
III バイオ技術等を駆使したオリジナル品種と育種素材の開発				
1 シイタケ新品種の育成				
1) 原木乾シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単
2) 原木生シイタケ優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単
2 その他食用きのこ品種の育成				
1) ナメコの優良品種の開発	きのこチーム		平21~25	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題	担 当	連携機関	研究期間	予算区分
V 低コスト、高品質化生産技術の確立				
3 シイタケの原木栽培技術の確立				
1) 大径原木による乾シイタケの効率的栽培技術の開発	きのこチーム		平18～22	県単
2) 暖冬に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発	きのこチーム		平20～24	県単
3) 暖冬下における乾シイタケ品種の栽培特性に関する研究	きのこチーム		平20～24	県単
4) 原木生シイタケ栽培における冬期の生産量向上技術に関する研究	きのこチーム		平22～25	県単
4 シイタケの菌床栽培技術の確立				
1) クヌギチップを利用した菌床シイタケ培地に関する研究	きのこチーム	九州大学 他	平21～23	県単
5 その他有用きのこ類の生産技術の確立				
1) キクラゲ類の原木栽培技術の開発	きのこチーム		平21～24	県単
エ 県民が多面的機能を共有できる農山漁村の整備				
XI 環境負荷軽減技術の確立				
6 シイタケ生産工程省力化技術の開発				
1) シイタケ乾燥技術の効率化に関する研究Ⅱ	きのこチーム		平21～22	県単
7 きこの類の病虫害防除技術の確立				
1) きこの類栽培における害虫類の生態解明と防除技術の開発	きのこチーム		平22～23	県単
研究分野における基礎的データ収集と優良種苗等供給体制の確立				
1 育種素材の収集保存				
1) 有用きのこ類の遺伝子収集及び保存	きのこチーム		平元～	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	発行年月	項数	部数
平成21年度林業研究部きのこグループ業務年報	H22年12月	66	500
情報誌「くらんぷ」 第41号	H23年1月	7	2,500

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
村上 康明	大分県で発見された日本新産種 <i>Cystoderma tricholomoides</i> について	日本菌学会会報	第51巻 第2号	77～80

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H. 22. 5. 19	日本菌学会第54回大会	村上 康明	日本菌学会・日本きのこ学会合同特別シンポジウムならびに市民講座講演「光るきのこ」
H. 22. 12. 11	日本菌学会関東支部25回大会	村上 康明	菌学シンポジウム講演「発光性きのこの分類と生態」
H. 22. 10. 9	第66回日本森林学会九州支部研究発表会	村上 康明	シイタケオオヒロズコガ類成虫のLED照明器具による誘引試験(速報)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H. 22. 10. 9	第66回日本森林学会九州支部研究発表会	石井 秀之	冬期の気象条件が春期のシイタケ子実体発生に与える影響について

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加数
平成22年度きのこグループ研究発表会	H23. 2. 8	きのこグループ	3	126

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H21.8.31	第1回広域普及員プロジェクト研修	きのこグループ	12	
H22.12.7~9	試験研究機関実践研修	きのこグループ	1	
H22.12.20~21	試験研究機関実践研修	きのこグループ	1	
H23.1.17~18	試験研究機関実践研修	きのこグループ他	1	
H23.2.1	試験研究機関実践研修	きのこグループ	1	
H23.2.28	第2回広域普及員プロジェクト研修	きのこグループ	13	

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.5.19	林業全般基礎研修	県庁	20	
H23.3.1	南部振興局林業職員原木しいたけ栽培実践研修	佐伯市	13	

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第4期)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.7.21	大分しいたけ源兵衛塾開講式並びに第1回研修会	きのこグループ	62	
H22.9.2	大分しいたけ源兵衛塾第2回研修会	椎茸農協	35	
H22.9.17	大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会(東部・北部)	きのこグループ	23	
H22.9.14	大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会(中部・南部・豊肥)	きのこグループ	27	
H22.10.27	大分しいたけ源兵衛塾第4回研修会	きのこグループ	30	
平成23年1月13	大分しいたけ源兵衛塾第5回研修会	きのこグループ	36	
H23.2.8	大分しいたけ源兵衛塾第6回研修会等合同研修会	きのこグループ	72	

エ. 新規参入者研修（栽培体験コース）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.7.6	第1回原木しいたけ新規参入者ステップアップ研修会	中津市	10	
H22.8.24	東部局原木しいたけ栽培新規参入者ステップアップ研修会	国東市	29	
H22.9.12	第1回原木しいたけ栽培新規参入者研修	きのこグループ	59	
H22.9.29	第1回中部管内原木しいたけ新規参入者研修会	きのこグループ	24	
H22.10.17	第2回原木しいたけ栽培新規参入者研修	きのこグループ他	53	
H23.1.28	第2回原木しいたけ栽培新規参入者ステップアップ研修会	国東市	38	
H23.2.13	第3回原木しいたけ栽培新規参入者研修	きのこグループ	38	
H23.2.16	第2回原木しいたけ栽培新規参入者ステップアップ研修会	中津市	20	
H23.3.13	第4回原木しいたけ栽培新規参入者研修	きのこグループ	32	

オ. きのこ栽培研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.8.29	夢アグリ農業者講習会	豊後大野市	19	
H22.9.6	緑の雇用担い手対策事業専門研修	きのこグループ	45	
H23.2.12	夢アグリ農業者講習会	豊後大野市	26	
H22.7.6	中津市椎茸振興協議会研修会	中津市	44	
H22.8.5	第1回しいたけ原基塾研修会	きのこグループ	26	
H22.8.23	東部局乾しいたけ自主研究グループ「夫婦塾」栽培研修会	国東市	19	
H22.9.8	乾椎茸1kg2万円に挑戦する会研修会	豊後高田市	17	
H22.9.8	椎茸農協国東地区連合会品質向上・増産研修会	国東市	200	
H22.9.15	しいたけの安定生産と安全伐採研修会	竹田市	135	
H22.9.27	秋子づくりと安全伐採研修会	豊後大野市	133	
H22.9.30	田染地区椎茸栽培協議会研修会	豊後高田市	23	
H22.10.18	臼杵市椎茸振興協議会研修会	臼杵市	23	
H22.10.22	第2回豊肥地区「しいたけ原基塾」研修会	きのこグループ	17	
H22.11.2	本匠椎茸団地研修会	佐伯市	18	
H22.12.17	第3回豊肥地区「しいたけ原基塾」研修会しいたけ原基塾研修会	豊後大野市他	40	
H23.1.26	伐採作業等の安全講習会及び椎茸の栽培講習会	由布市	28	

カ. きのこ教室等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.7.2	農業関係高校生人材育成研修	きのこグループ	40	
H22.8.10	農業人材育成推進事業	きのこグループ	5	

キ. 品評会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.4.16	第4回東部地区乾椎茸品評会審査会	国東市	16	
H22.4.20	第40回豊後大野市椎茸振興会朝地支部品評会	豊後大野市	22	
H22.4.22	第10回臼津地区乾椎茸品評会審査会及び研修会	臼杵総合庁舎	36	
H22.4.26	第6回佐伯市乾椎茸品評会審査会	椎茸農協県南支部	14	
H22.4.27	第4回宇佐市乾椎茸品評会	宇佐市	7	
H22.5.7	第53回大分県乾椎茸品評会(箱物)審査会	椎茸農協本部	27	
H22.5.13	第53回大分県乾椎茸品評会(袋物)審査会	椎茸農協本部	42	
H22.5.14	第53回大分県乾椎茸品評会(袋物)審査会	椎茸農協本部	42	
H22.5.18	第37回JA全農おおいた乾椎茸品評会審査会	全農大分本部	9	
H22.6.11	第58回全国乾椎茸品評会出品物選別指導	椎茸農協本部	3	
H22.6.14	〃	〃	5	
H22.6.15	〃	〃	3	
H22.11.18	第22回県生しいたけ品評会審査会	大分市	20	

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

② 短期研修及び視察対応

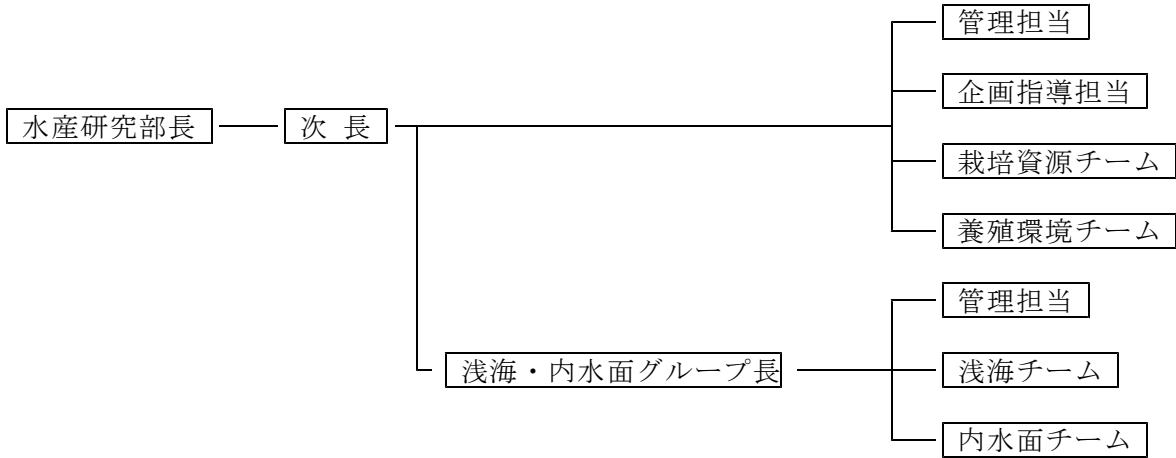
対象者	件数(件)	受入人数(人)
生産者	18	545
団体等職員	1	45
普及指導員	6	29
学生	2	45
海外研修者	3	61
その他	5	1,041
	35	1,765

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
乾シイタケ乾燥技術の効率化に関する研究	乾シイタケ生産者が所有する乾燥機の乾燥スケジュールの見直し・改善による効率的な乾燥技術の普及による乾燥コストの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・下吹き方式乾燥スケジュールの現場実証により燃料の削減効果については確認できたものの、具体的な削減量等について今後実証を継続する必要がある。 ・広域普及及び地域普及指導との連携により生産者の取り組みについて指導を強化する。

II-8 水産研究部

(1) 組織



(2) 職員配置状況

水産研究部	職 種 組 織	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
	部 長		1					1	海事職員 6
	次 長	1						1	
	管 理 担 当	4	6				1	11	
	企 画 指 導 担 当		2					2	
	栽 培 資 源 チーム		7					7	
	養 殖 環 境 チーム		7					7	
	計	5	23				1	29	
浅海・内水面グループ	グ ル ー プ 長		1					1	
	管 理 担 当	1					1	2	
	浅 海 チーム		7	1				8	
	内 水 面 チーム		3					3	
	計	1	11	1			1	14	
合 計		6	34	1			2	43	

(3) 業 務

- ① 漁業の調査研究に関すること
- ② 漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③ 水産動植物の増養殖に関すること
- ④ 漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤ 水産動物の防疫等魚病指導に関すること
- ⑥ 水産物の加工等水産物加工指導に関すること
- ⑦ その他水産業の改良発達に関すること

1. 平成22年度試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 資源生態及び評価に関する研究	栽培資源チーム	(独)水産総合研究センター、関係県	H22~24	委託
(2) 資源回復に関する研究	栽培資源チーム	(独)水産総合研究センター	H21~25	県単一部国庫
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 資源生態及び評価に関する研究	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H22~24	委託
(2) 資源回復に関する研究	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H14~H25	県単
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 放流後のモニタリング	栽培資源チーム		H21~25	県単一部国庫
(2) 放流効果の解明と放流手法の改善	栽培資源チーム		H21~25	県単一部国庫
(3) 放流技術の開発	栽培資源チーム		H21~25	県単一部国庫
(4) 新規栽培魚種としての適正判断	栽培資源チーム		H21~25	県単一部国庫
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 中間育成方法の改良、普及	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H20~22	委託
(2) 放流効果の解明と放流手法の改善	浅海チーム	(独)水産総合研究センター、山口県、福岡県	H20~22	委託
(3) 放流技術の開発	浅海チーム	(独)水産総合研究センター	H20~22	委託
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (水産研究部)				
(1) 新規養殖魚種(カワハギ)の種苗生産技術開発	栽培資源チーム		H21~H24	県単
(2) 人工種苗の有用性確認のための養殖実証試験	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H21~H24	県単
(3) 漁業公社への技術移転	栽培資源チーム	漁業公社	H21~H24	県単
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (浅海・内水面グループ)				
(1) 新規介類(ナマコ)量産技術の確立	浅海チーム		H12~H22	県単
(2) 放流及び養殖技術の開発及び実証試験	浅海チーム		H12~H22	県単
(3) 漁業公社への技術移転	浅海チーム	漁業公社	H12~H22	県単
4) 養殖技術の開発・普及				
(1) 既存養殖魚種の高品質化技術の開発	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H21~H23	県単
(2) 新規養殖魚種(カワハギ等)養殖技術の開発	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H21~H23	県単
5) 育種による優良品質の作出				
(1) ヒラメの高水温耐性品種の作出	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H21~H23	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
6) 二枚貝をはじめとする魚介類の養殖技術の開発普及				
(1) イワガキの養殖技術の確立及び普及	浅海チーム	振興局	H12～H22	県単
(2) 新たな養殖対象魚類の開発	浅海チーム		H12～H22	県単
7) アサリ大型種苗量産技術開発研究				
(1) 飼育方法、餌料の検討	浅海チーム		H16～H25	県単
(2) 種苗生産の経費削減	浅海チーム		H16～H25	県単
(3) 大型種苗生産の量産技術開発	浅海チーム		H16～H25	県単
8) 有用藻類の増養殖技術開発				
(1) ヒジキの養殖技術の確立及び普及	浅海チーム	振興局	H18～H23	県単
(2) ヒジキの人工種苗生産技術の開発	浅海チーム		H18～H23	県単
(3) ノリの病害対策と情報提供	浅海チーム		長期	県単
9) 種苗生産に関する開発研究				
(1) アユ親魚の確保・系統保存	内水面チーム	漁業公社	H22～H24	県単
(2) 天然遡上アユを親魚とした種苗量産技術開発	内水面チーム	漁業公社	H22～H24	県単
10) 屋内高密度養殖によるドジョウ主産地の形成				
(1) 効率的な生産システムの確立、指導、普及	内水面チーム		H21～H23	財産収入
(2) 餌料生物の安定培養技術の確立	内水面チーム		H21～H23	財産収入
(3) 養殖生産コスト削減対策	内水面チーム		H21～H23	財産収入
11) アユ等の内水面重要資源の持続的利用のための研究				
(1) アユ遡上資源調査、産卵場・流下仔魚調査	内水面チーム		H22～H24	県単
(2) 保護水面調査	内水面チーム		H22～H24	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 漁獲物及び養殖生産物の鮮度保持技術の開発及び流通手法の改善等の研究				
(1) 漁獲から消費までの鮮度保持技術の向上、流通手法の改善研究	養殖環境チーム	大分大学	H20～22	県単
2) 病害及び防疫対策に関する研究				
(1) ウイルス病等の早期発見技術の開発	養殖環境チーム	(独)水産総合研究セン	H12～H20～H22	国庫補助 県単
(2) 感染経路の遮断及び治療方法等の確立のための研究	養殖環境チーム	(独)水産総合研究セン	H12～H20～H22	国庫補助 県単
(3) 魚病診断及び対策指導	養殖環境チーム	(独)水産総合研究セン	H12～H20～H22	国庫補助 県単
(4) 新しいワクチンの開発のための基礎研究	養殖環境チーム	(独)水産総合研究セン	H20～H22	県単
(5) ワクチンの適正使用の指導	養殖環境チーム		H12～	国庫補助
(6) 内水面の疾病対策及び治療技術開発	内水面チーム	養殖環境チーム	H12～	国庫補助
3) 養魚飼料、餌料の品質評価及び改良に関する研究				
(1) 養殖魚に対する効果的な餌料、給餌方法の解明	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H20～22	委託
(2) 低コスト飼料の開発と評価	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H20～22	委託
(3) 養魚用飼料の分析・指導	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H21～H23	県単
(4) 養殖魚品質向上技術開発	養殖環境チーム	栽培資源チーム	H21～H23	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
1) 漁海況予報に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 漁海況データの収集と予報資料の発信	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン	長期	国庫補助
(2) 漁海況予測に関する技術開発	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン	長期	国庫補助
(3) 他機関との連携による漁況予測	栽培資源 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、関係県	長期	国庫補助
1) 漁海況予報に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 漁海況予測に関する技術開発	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン	長期	国庫補助
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に 関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) カレニア・ミキモトイ等の より正確な発生予察技術の確立	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、浅海	H21～H23	県単 委託
(2) 上記以外の有害プランクトンによる赤潮・貝毒発生 予察技術の確立	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H21～H23	県単
(3) 有害プランクトンの生理生態研究とそれを基にした赤潮・ 貝毒被害防止のための技術及び手法の開発	養殖環境 チーム	(独) 水産総 合研究セン ター	H21～H23	県単
2) 有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に 関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) カレニア・ミキモトイ等の より正確な発生予察技術の確立	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、養殖環 境チーム	H21～H23	県単
(2) 周防灘関係県との有害プランクトン共同調査	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、山口 県、福岡県 等、養殖環 境チーム	H21～H23	委託
(3) 貝毒被害防止技術の開発	浅海チーム	(独) 水産総 合研究セン ター、養殖環 境チーム	H21～H23	委託
3) 環境を重視した養殖技術の改良と普及				
(1) 藻類との複合養殖による汚染負荷の軽減 についての試験、研究	養殖環境 チーム		H20～H22	県単
(2) 上記藻類を餌とするアワビ養殖等の研究	養殖環境 チーム		H20～H22	県単
4) 有害生物の生態等に関する研究				
(1) ミズクラゲ等の分布状況の定量的な把握	栽培資源 チーム		長期	県単
(2) 有害生物の生態に関する基礎的知見の整理と 駆除対策の検討	浅海チーム		H16～H25	県単 委託
5) 海域の温暖化に対応した魚類養殖技術の開発研究				
(1) 飼料添加物を利用した生体防御能の向上効果の研究	養殖環境 チーム		H21～H23	県単
6) 養殖漁場の環境保全に関する調査研究・指導				
(1) 漁場環境調査結果による適切な評価方法の開発	養殖環境 チーム		H22～H24	県単
(2) 養殖漁場の底質評価の情報提供	養殖環境 チーム		H22～H24	県単

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
7) 漁場造成技術開発				
(1) 藻場のモニタリング調査	栽培資源チーム		H19～H23	県単
(2) 磯焼けの回復技術に関する研究	栽培資源チーム		H19～H23	県単
(3) 魚礁の効果調査	栽培資源チーム		H21～H25	県単 国庫補助
8) フルボ酸鉄による藻場造成力実証試験				
(1) 海水中の溶存態鉄の動態の解明	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H22～H24	県単
(2) 溶存態鉄と藻場・磯焼けとの関係の解明	栽培資源チーム		H22～H24	県単
(3) 溶存態鉄濃度と藻類の生長との関連の解明	栽培資源チーム	養殖環境チーム	H22～H24	県単
9) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査				
(1) 漁場環境調査	内水面チーム		H22～H24	県単
(2) 水生生物基礎調査	内水面チーム		H22～H24	県単
5 地域資源の活用と省エネルギーの開発技術				
1) 漁海況情報の迅速な提供				
(1) シラス魚群マップシステムの活用試験	栽培資源チーム	北海道大学、徳島県他	H19～H23	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1) 漁獲統計資料の整備	栽培資源チーム		長期	県単
2) 疾病診断と養殖衛生管理指導				
(1) 医薬品等の適正使用指導	養殖環境チーム 内水面チーム		長期	県単
(2) 養殖場の調査・監視	養殖環境チーム 内水面チーム		長期	県単
3) 種苗生産供給体制の確立と支援				
(1) 漁業公社への技術指導、技術支援	栽培資源チーム		長期	県単
(2) スッポン、ドジョウ種苗の安定供給	内水面チーム		H21～H23	県単 財産収入
4) 漁村グループを対象とした加工指導	養殖環境チーム	各振興局	長期	県単
5) 漁場環境調査				
(1) 漁場環境調査（浅海定線調査、漁場環境保全調査等）	養殖環境チーム	環境保全課	長期	国庫補助
6) 栽培漁業展開のための技術指導				
(1) 放流方法等の指導	栽培資源チーム 浅海チーム		長期	県単
7) 有害生物の駆除対策指導				
1) ブラックバス等の外来魚駆除技術の普及・指導	内水面チーム		長期	県単
2) カワウによる食害被害軽減技術の普及・指導	内水面チーム		長期	県単

2. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
おおいたアクア・ニュースNo. 31	H22. 7. 15	16	360
平成21年度大分県農林水産研究センター水産試験場事業報告	H22. 11. 5	350	300
おおいたアクア・ニュースNo. 32	H23. 1. 13	12	350

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
福田 穰	魚類養殖現場でできる日常の健康診断	養殖	47(7)	22-24
福田 穰	魚病NOW:カワハギの滑走性細菌症	養殖	47(11)	94
大屋 寛	ブリ・ヒラマサを対象とした低魚粉飼料試験	アクアネット	2010年 10月号	42-45
松井崇憲	合成タウリンの添加効果(EP偏)	月刊 かん水	No.550	17-21
宮村和良	沿岸域における有害有毒プランクトンの発生メカニズムと予知 「豊後水道における <i>Karenia mikimotoi</i> 赤潮」	日本水産学会誌	77(3)	442
Takamitsu Sakai, Yasuyuki Miyoshi, Tomomasa Matsuyama, Chihaya Nakayasu, Takashi Kamaishi, <u>Yutaka Fukuda</u> and Takaji Iida	Detection of Japanese flounder antibody against fimbrial major protein of <i>Edwardsiella tarda</i>	Fish Pathology	46(1)	23-26

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H22.9.22	平成22年度日本水産学会秋季 大会 ミニシンポジウム 沿岸域 における有毒有害プランクトンの 発生メカニズムと予知	宮村和良	豊後水道における <i>Karenia mikimotoi</i> 赤潮
H22.10.9	平成22年度九州・山口ブロック 水産試験場長会「漁場環境分 科会」	宮村和良・東馬場大	貝毒被害対策におけるELISA法の 有用性
H22.11.9	平成22年度水産海洋学会研究発表 大会	西山雅人・真田康広・山田 英俊・斉藤真美	豊予海峡周辺海域におけるマアジの成熟 と卵の分布特性
H22.12.9	平成22年度漁場環境保全関係研究 開発推進特別部会 赤潮・貝毒部会	宮村和良・岩野英樹・石坂 丞二・エコ シスワント・小 泉喜嗣・尾田成幸・小柳隆 文・古川三記子・村上浩	大分県豊後水道沿岸におけるカレニア赤 潮監視とその成果(リモートセンシング技 術を利用した赤潮監視)
H23.2.21	衛星観測システムの海洋生態系研究 及び水産業への利用のための基盤 技術に関する研究	宮村和良・岩野英樹・石坂 丞二・エコ シスワント・小 泉喜嗣・尾田成幸・小柳隆 文・古川三記子・村上浩	大分県豊後水道沿岸におけるリモートセ ンシング技術を利用した赤潮監視
H23.3.27	平成23年度日本魚病学会春季大会	高野倫一・中村洋路・松山 知正・坂井貴光・中易千 早・近藤秀裕・廣野育生・ 福田 穰	ブリの細菌性溶血性黄疸の原因細菌のド ラフトゲノム解析
H23.3.27	平成23年度日本魚病学会春季大会	松山知正・坂井貴光・高野 倫一・中村洋路・中易千 早・近藤秀裕・廣野育生・ 福田 穰	細菌性溶血性黄疸の病原体細菌の多型 解析
H23.3.27	平成23年度日本魚病学会春季大会	横山 博・Mark Freeman・ 福田 穰	養殖カワハギに発生した粘液胞子虫性や せ病
H23.3.28	平成23年度日本水産学会春季大会	伊藤龍星・原 朋之	食用ヒジキの付着生物
H23.3.28	平成23年度日本水産学会春季大会	三代和樹・齊籐 肇・秋山 吉寛	アサリ資源回復にむけての人工転石帯の 有効性と被覆網の効果
H23.3.28	平成23年度日本水産学会春季大会	亘 真吾・村田 実・樋下 雄一・三代和樹	瀬戸内海西部におけるハモの耳石輪紋の 読み取り方法の検討
H23.3.30	平成23年度日本水産学会春季大会	大久保誠・片山知史・行平 真也・真田康広・清水昭男	カタクチイワシLH遺伝子の発現解析

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成22年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	H22. 12. 6 ～7	佐伯総合庁舎 佐伯市	13	34
平成22年度農林水産関係研究成果発表会	H23.3. 2	県庁本館 正庁ホール	2	171

3. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H22.4.9	ヒジキ収穫前学習会	国東市国東町	50	県漁協国東支店
H22.4.23	ドジョウ種苗生産	宇佐市安心院町	2	石川県水産総合センター
H22.4.30	真玉の海を知る学習会	豊後高田市	85	真玉中学校
H22.5.12	屋内高密度ドジョウ養殖	佐伯市弥生	15	佐伯市農林水産部
H22.5.16	カニかご目合い拡大試験結果及び計画	豊後高田市	20	県漁協宇佐支店
H22.5.20	大分県瀬戸内海海域におけるクルマエビの放流効果	豊後高田市	25	県漁業士会底びき網部会
H22.5.21	赤潮講習会	佐伯市	13	大分県漁業協同組合青年部
H22.6.7	アサリ資源回復計画に係わる視察研修	豊後高田市	13	熊本県網田漁協アサリ研究部
H22.6.8	豊後水道北部海域赤潮研究会	臼杵市	23	中部振興局
H22.6.14	スッポン養殖	宇佐市安心院町	6	滋賀県湖南市観光物産課
H22.6.20	カニかご目合い拡大試験結果及び計画	豊後高田市	20	県漁協中津支店
H22.6.24	佐伯湾クルマエビ放流調査の概要	佐伯市	28	水産振興課
H22.6.25	水産用医薬品の適性使用と魚病対策について	佐伯市	40	大分県水産振興協議会
H22.7.7	大分県の磯焼け	佐伯市	15	佐伯湾地区藻場保全活動組織
H22.7.9	中津干潟アサリ増殖検討会	豊後高田市	60	県漁協中津支店
H22.7.16	アオリイカの生態	津久見市	20	津久見市アオリイカ出荷協議会
H22.7.16	アサリ資源回復計画に係わる視察研修	豊後高田市	30	熊本県宇土市
H22.8.19	ヒジキ養殖検討会	日出町	20	県漁協日出支店
H22.8.26	ナマコの種苗生産と飼料について	豊後高田市	2	株式会社ヒガシマル
H22.9.1	ヒジキ養殖について	豊後高田市	20	熊本県天草漁協崎津支所
H22.9.27～28	魚病概論	山口県下関市	10	独立行政法人水産大学校
H22.10.12	現在までの磯焼け対策	臼杵市	50	豊後水道北部水産振興協議会
H22.10.12	ヒジキの生態と増殖・収穫時の注意点、食用海藻「クロメ」に関	臼杵市	50	豊後水道北部水産振興協議会
H22.11.8	スッポンの生態と養殖	宇佐市安心院町	18	安心院高校食文化コース
H22.11.30	魚病発生状況・アマゴの春採卵技術開発	別府市	27	おおいブランド推進課
H22.12.2	ナマコ視察研修	豊後高田市	5	対馬市なまこ増殖チャレンジ協議会
H22.12.10	ヒジキ養殖現地視察	国東市国見町	8	株式会社山忠
H22.12.16	クロメ養殖、種糸作成について	豊後高田市	5	大分市水産物流通加工協議会
H22.12.22	ドジョウとスッポンの養殖	宇佐市安心院町	1	宮崎県日南市議会事務局
H23.1.6	大分県におけるヒジキ養殖の現状と課題	佐伯市	25	株式会社山忠
H23.1.22	煮干しの解剖実験	大分市	20	工業振興課
H23.1.27	小型機船底びき(2種)における底網の目合い拡大手法	山口県下関市	10	独立行政法人水産工学研究所
H23.2.4	大分県海域におけるナルトビエイ生態調査	東広島市	50	広島大学
H23.2.8	ナルトビエイおよびアサリの資源管理について	豊後高田市	16	熊本県八代市水産振興協議会
H23.2.16	食用海藻ヒジキとクロメの収穫・維持・管理について	佐伯市	40	大分県藻場保全活動組織
H23.2.17	大分県におけるヒジキ養殖	豊後高田市	21	長崎県佐世保市相浦漁協
H23.3.2	県産カボスを利用した養殖ブリの肉質改善	大分市	150	農林水産研究指導センター
H23.3.2	ヒジキ養殖と種苗生産	大分市	150	農林水産研究指導センター
H23.3.8	大分県南部における磯焼けの現状	佐伯市	20	豊後水道南部漁業青年協議会
H23.3.14	ヒジキ養殖現地研修	国東市国見町	16	山口県漁協室津支所
H23.3.16	偏性病原体と条件性病原体の違いによる対処法について	宇佐市安心院町	6	内水面各漁協
H23.3.19	最近の魚病発生状況と対策について	佐伯市	12	大分県水産振興協議会
H23.3.19	低魚粉飼料の開発	佐伯市	42	大分県水産振興協議会
H23.3.19	水産用医薬品の適性使用	佐伯市	42	大分県水産振興協議会
H23.3.19	小型機船底びき(2種)の目合い拡大試験	豊後高田市	20	豊前海漁業青年協議会

(2) 受入研修

①長期研修受け入れ なし

②短期研修及び視察対応

対象者	件数 (件)	受入人数 (人)
生産者	20	120
団体等職員	8	21
普及指導員	0	0
学生	11	225
海外研修者	6	52
その他	34	231
計	79	649

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
豊予海峡周辺におけるマアジ、マサバの資源生態に関する研究	豊予海峡におけるアジサバの資源生態を明らかにし、資源管理を基調とした一本釣りたまき網の漁業調整を図り、新たな資源管理の取り組みによる資源の維持管理を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 豊予海峡周辺のアジサバの資源生態について、マアジの主産卵海域は豊予海域で、産卵時期は4月から6月にピークがあることなどを明らかにするとともに、データを蓄積した(現地説明会等5回開催した)。 豊予海峡アジサバ調整会議において初の休漁協定が締結された。
赤潮・貝毒被害軽減システムの開発 「簡易毒力検査(ELISA法)による貝毒被害軽減システム開発」	簡易毒力検査の導入による効果的な貝毒被害防止システムを普及し、毒化防止(出荷規制期間の短縮)による安定出荷を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 毒化モニタリングに基づく避難漁場への避難指示により春先のG.カテナータム及び12月のA.カテナラの毒化を防止することができた(養殖ヒオウギ) 1月からG.カテナータムが異常に増殖し二枚貝が毒化、規制値を上回った。
新規養殖対象種(イワガキ)の種苗生産の研究 「イワガキ養殖の普及・拡大」	イワガキ種苗生産技術の確立することで、南部振興局管内のイワガキ養殖の普及・拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 1,197千貝を種苗生産できたので、当初の目標500千貝を上回った。 南部振興局管内で2名の新規試験養殖経営体があった。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX番号
農林水産研究指導センター (本部)	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦3456	0972-82-2837	0972-82-5322
ナシ・ブドウチーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2369	0974-22-4236	0974-22-6850
水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
浅海・内水面グループ	879-0617	豊後高田市高田3008-1	0978-22-2405	0978-24-3061
内水面チーム	872-0504	宇佐市安心院町荘42	0978-44-0329	0978-34-4050

平成22年度
大分県農林水産研究指導センター業務年報

平成23年10月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052